

戸田市における 20 代・30 代の若年層に関する基礎研究  
共同研究中間報告書【本編】

---

2016 年 3 月

戸田市政策研究所／目白大学社会学部地域社会学科



戸田市における20代・30代の若年層に関する基礎研究  
共同研究中間報告書

## 目次

I 調査の目的と概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査対象及び調査方法等	2
3. 報告書の留意点	3
II 調査結果	4
1. 調査結果の概要と報告書の分析ポイント	5
(1) 調査結果の概要	5
(2) 中間報告書から抽出されるポイント	8
2. 調査回答者の基礎的情報	9
(1) 性別	9
(2) 年齢別	9
(3) 地区別	10
(4) 居住年数	11
(5) 最終学歴	11
(6) 同居する家族・配偶者・子どもの有無	12
(7) 現在の立場	13
3. 戸田市への居住理由・転出理由	14
(1) 戸田市に住むようになった理由	14
(2) 戸田市から転出を考える際の理由	15
(3) 戸田市での労働志向と定住意向	16
4. 交通インフラ	18
(1) 居住理由としての交通アクセスの利便性	18
(2) 転出理由としての交通アクセスの問題	18
(3) 居住理由／転出理由としての交通アクセス	19
(4) 戸田市内における交通アクセスの問題	20
5. 自然環境とお気に入りの場所	21
(1) 戸田市の自然環境へのイメージ	21
(2) 居住理由としての自然環境の豊かさの位置	22
(3) 戸田市内のお気に入りの場所：自然環境と消費空間	23
(4) 若年層が戸田市内に求める場所	24
6. 消費行動	25
(1) 今後、力を入れて欲しい点	25
(2) 日常的に立ち寄る施設	25
(3) 買物をする場所	26

(4) 日常的に出かける場所 .....	27
(5) 戸田市／都心の消費行動で期待するもの .....	29
7. 人間関係 .....	30
(1) 人間関係の希薄さと期待 .....	30
(2) 戸田市内でつきあいのある人数 .....	30
(3) 戸田市内での知人 .....	31
(4) 「人とのつながり」への期待 .....	32
8. まちづくり意識 .....	33
(1) 「地域」への関心 .....	33
(2) 地域活動に期待すること .....	34
(3) 若年層の「まちづくり意識」の萌芽 .....	37
参考文献・資料 .....	38
調査票 .....	39

## I 調査の目的と概要

## 1. 調査の目的

埼玉県内でも人口の平均年齢が若いまちである戸田市は、人口 135,132 人（2015 年 12 月 1 日現在）の約 30%を 20 代・30 代が占めている。それは、戸田市の都心への交通アクセスの利便性を背景に、就職や結婚を機に転入してくる若年層が多いためである。だが、転出者も多く、特に 34～39 歳では、転出者が転入者を上回っているという課題もある（『戸田市若年世帯意識調査』2012 年など）。そのような背景のもと、戸田市は、若年層の転出問題を今後、取り組むべき課題とし、2015 年 10 月に「戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」及び「戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る人口ビジョン」（2015 年 10 月）を策定した。そこで、戸田市の将来を担う、若年層である子育て世代や住宅購入世代といったファミリー層の転入増や定住化及び転出の抑制を目標とし、ライフステージに応じた住み替え支援、治安の改善など住みやすい住環境の創出などを施策としている。

だが、若年層の転出問題の抑制は戸田市に限った課題ではない<sup>1</sup>。若年層の転出可能性が高い点については、就職、転職、転勤や結婚などに伴う「ライフイベント」<sup>2</sup>や「居住年数の短さ」<sup>3</sup>と関連するこの世代の特徴とも言われている。であるならば、制度やハード面を整備のみならず、地域への愛着度、人間関係や日常的な生活への満足度を高めることによって、若年層の転出を抑制することも十分に検討する必要があるのではないだろうか。

そこで、本調査は、若年層の戸田市に対する関心・愛着・期待・問題意識、日常的な人間関係や消費行動における不満等を把握し、今後の戸田市に望まれる「まちづくり」のあり方やその主体について検討するための基礎的情報を抽出することを目的とする。それは、本報告書が、2 年計画で実施する共同研究の中間報告として位置づけているためである。

## 2. 調査対象及び調査方法等

- (1) 調査地域 埼玉県戸田市
- (2) 調査対象者 2015 年 6 月 1 日時点で戸田市在住の 20 歳～39 歳の男女 1,500 人。
- (3) 調査対象者の抽出方法 住民基本台帳に基づく無作為抽出（年齢（5 歳刻み）、居住地区の人口比率を基準）
- (4) 調査期間 2015 年 10 月 10 日～11 月 16 日
- (5) 調査方法 郵送配布、郵送回収
- (6) 主な調査項目 居住／転出理由、戸田市に対する意識、戸田市内／市外での行動、消費行動など
- (7) 企画・実施機関 戸田市政策研究所、目白大学社会学部地域社会学科
- (8) 回収状況 回収票 616 票（回収率：41.1%）、無効票 7 票<sup>4</sup>、有効回答票 609 票（有効回答率 40.6%）

<sup>1</sup> 川口市（2014）や朝霞市（2014）の市民調査や埼玉県と埼玉大学の共同調査（2015）においても、他の年代と比較した際に、30 歳代以下の若年層が「ずっとこのまちに済みたい」の回答比率が低いことが報告されている。

<sup>2</sup> 永井（2014）によれば、人口移動は、個々人のライフサイクルの変化に合わせて、①世帯主の移動に伴うもの、②転勤などの職業的理由によるもの、③住宅事情によるもの、④生活環境の変化によるもの、⑤結婚や離婚等に起因するもの、⑥進学などの学業を理由としたもの、⑦親族との同居を理由とするもの、といった 7 つの主要因を提示している。そして、20～24 歳は進学、就職といったライフイベントによる移動要因が加わるが、20 代・30 代については、「世帯主の移動」を除く、6 つの要因が該当すると指摘している。

<sup>3</sup> 山本ら（2012）は、東京都の郊外都市である立川市の住民を対象とした調査において、「居住歴 5 年未満」の多くが 20 代・30 代であり、転居可能性の高い流動層であることを明らかにしている。

<sup>4</sup> 無効票の内訳は、40 歳以上が 4 票、半数以上の設問に無回答が 3 票。

### 3. 報告書の留意点

- (1) 回答数の比率は、百分率(%)で表し、小数点第2位以下を四捨五入しているため、比率の合計が100%にならない場合もある。
- (2) 分析の基礎となる数は“n=〇〇”で示した。ただし、無回答の都合上、その数は一致しない。
- (3) 中間報告書としての位置づけから、本報告書では、回答の傾向とポイントを中心に記述する。
- (4) 自由記述の回答例は、駅名や施設名などを明確にするため、一部文言の調整を行っている。

## II. 調查結果



## 1. 調査結果の概要と報告書の分析ポイント

### (1) 調査結果の概要

#### ■戸田市在住の若年層の声

本調査結果の概要を示す前に、自由記述の回答に目を通したい。その結果を分類すると、下記のようなになる。これらは、戸田市への関心があるからこそ記述される「生の声」である。つまり、これらは若年層の「こうなったら暮らしやすい」という、まちのイメージや潜在的な戸田市に対する関心の現れとして理解することもできるだろう。本中間報告書は、自由記述で示された問題点を中心に、若年層の戸田市に対する意識、行動の実態を理解し、彼／彼女らの潜在的な戸田市への関心を読み解いていく。

問28 あなたが戸田市に居住し続けると想定した場合に、①あなたの感じる戸田市の問題点、②今後の戸田市に期待することについて、ご自由に記入して下さい。

- ・ 交通インフラの問題（埼京線に対する不満、市内の東西移動が困難であることに対する不満）
- ・ 行政サービスのさらなる充実（子育て支援【保育園・幼稚園、学童保育】など）
- ・ 都市インフラの不足（医療・銀行など）
- ・ 商業施設の不足（ショッピングセンター・カフェ・飲食店など）
- ・ 遊び空間の不足・改善（公園整備・大人の居場所【映画・ファッションなど】）
- ・ 地域の人とのつながりがいい／必要
- ・ まちとしての魅力が足りない（観光資源、日常的な消費空間の不足）

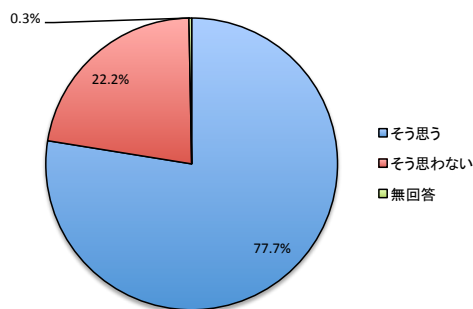
#### ■戸田市への定住意向と転出問題

はじめに、若年層の戸田市への定住意向を確認しよう。

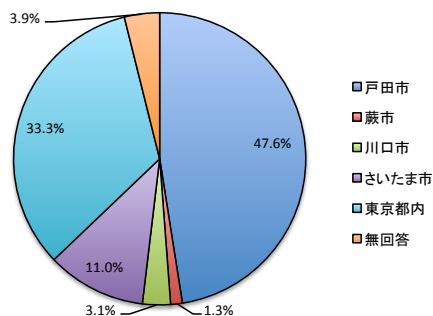
問5 あなたは戸田市で生活をする上で、以下の点についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい（選択肢「g. 今度も戸田市に住み続けたい」。）

問8 今後、あなたが住みたいと思う地域を教えてください。以下の中で、もっとも当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

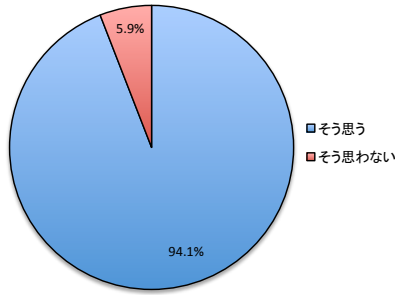
- ・ 「定住意向」は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が77.7%と高い割合を示した。
- ・ 「今後住みたいと思う地域」は、戸田市が47.6%、東京都内が33.3%で、合計80.9%を占めている。
- ・ 「戸田市に住み続けたい」と回答した人の内、94.1%の人は「定住意向」を持っている。
- ・ 「東京都内に住みたい」と回答した人の内、60.2%の人は「定住意向」を持っている。
- ・ 若年層の中で、今後、戸田市とは異なるまちに住みたいと答えた人でも戸田市への「定住意向」が極端に低いわけではない。



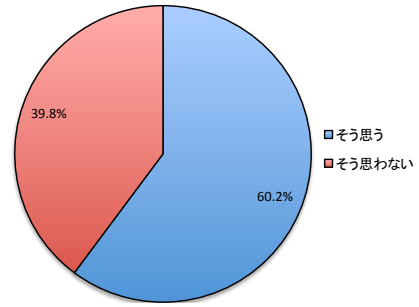
図表1 戸田市への定住意向（問5）



図表2 今後、住みたいまち（問8）



図表3 今後、戸田市に住みたい人の定住意向



図表4 今後、都内へ住みたい人の定住意向

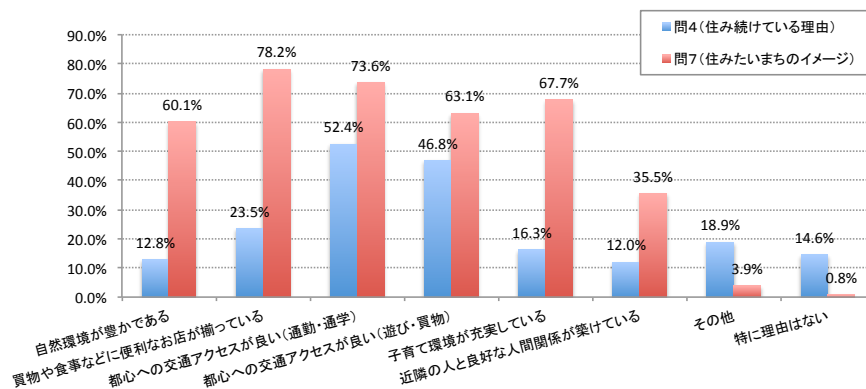
### ■戸田市に居住し続けている理由と理想とのギャップ

若年層の戸田市への定住意向は決して低くないことを確認した。では、なぜ転出が問題とされるのだろうか。その点を、戸田市に居住している理由と理想とのギャップから確認したい。

問4 あなたが戸田市に居住し続けている理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

問7 今後、あなたが住みたい街のイメージを教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ・ 「今後、住みたい街のイメージ」(理想)と「戸田市に居住し続けている理由」(現実)の差に着目すると、「自然環境が豊かである」(47.3ポイント【理想：60.1%、現実：12.8%】)、「買物や食事などに便利なお店が揃っている」(54.7ポイント【理想：78.2%、現実：23.5%】)、「子育て環境が充実している」(51.4ポイント【理想：67.7%、現実：16.3%】)と、大きな落差がある。
- ・ 居住し続けている理由のトップである「都心への交通アクセス」は、その差が20ポイント前後と他と比べて、理想と現実の差が少ないことから若年層にとって戸田市は都心へのアクセスの良さが魅力となっている。



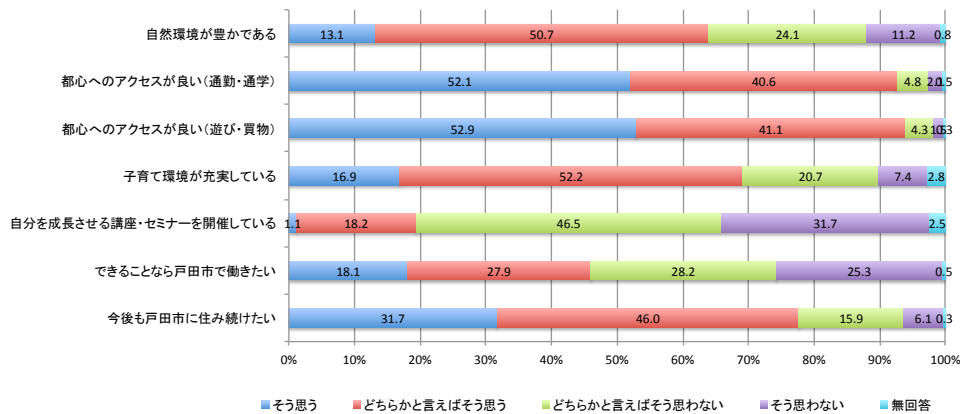
図表5 戸田市に住み続けている理由(問4)と今後住みたい街のイメージ(問7)

### ■戸田市に対する意識

戸田市に居住し続けている理由として、「通勤・通学」「遊び・買物」などのための「都心への交通アクセスの良さ」があげられることを確認した。一方で、「自然環境が豊かである」や子育て世代となる若年層にとって重要となる「子育て環境」は、居住し続けている理由として選択されていない。それらについて若年層は、どのように捉えているのだろうか。

問5 あなたは戸田市で生活をする上で、以下の点についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- ・ 戸田市で生活する上で、「都心への交通アクセス」に対しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が92.7%【通勤・通学】、94.0%【遊び・買物】と高い回答率を示した。
- ・ 「今後も戸田市に住み続けたい」に対しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」で77.7%。
- ・ 「子育て環境が充実している」は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が69.1%、「自然が豊かである」に対しては、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」が63.8%と居住し続けている理由としては選択されていないが、高い割合で肯定的に捉えられている。



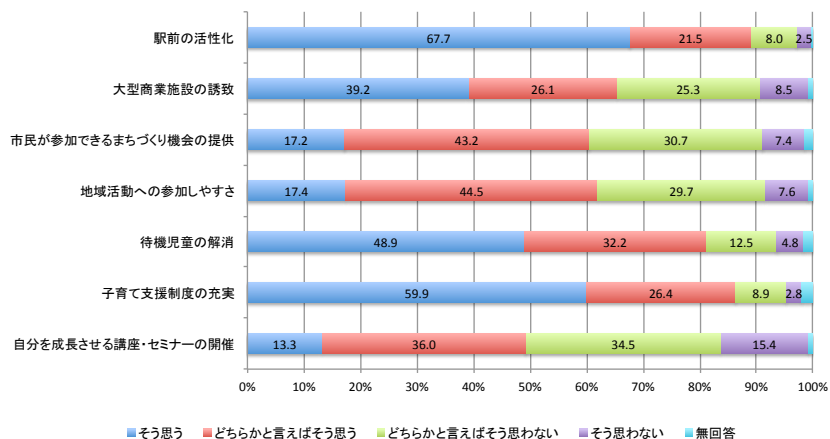
図表6 戸田市に対するイメージ（問5）

■ 今後、どのような点に力を入れたら、より住みやすくなると思うか

若年層は、戸田市に対して、どのような点を今後の改善点として期待しているのだろうか。

問6 あなたは戸田市がどのような点に力を入れると、今後、より住みやすくなると思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- ・ 「戸田市が力を入れると、より住みやすくなるか」については、消費空間（「駅前の活性化」「大型商業施設の誘致」）、まちづくり（「市民が参加できるまちづくり機会の充実」「地域活動への参加のしやすさ」）、子育て支援制度（「待機児童の解消」「子育て支援制度の充実」）は、60%を超える回答率であり、また講座・セミナーについても約50%が望んでいる。
- ・ 若年層は、総じて、戸田市に対して何らかの関心を持って生活していることが窺える。



図表7 今後、力を入れて欲しい点（問6）

## (2) 中間報告書から抽出されるポイント

以上、本調査結果の概要から得られた次年度の共同研究につながる本中間報告書のポイントを要約すると以下の通りであり、3章以降の各章で詳述していく。

- ①戸田市への定住意向は高い割合にあり、今後、東京都内に住みたい人でも決して低くはない(2章)。
- ②30代女性は、戸田市での労働志向と定住意向が高い傾向にある(3章)
- ③戸田市への転入理由の第一にあげられる「都心への交通アクセス」は、埼京線の本数や終電に対する不満と関連して、戸田市からの転出理由ともなっている(4章)。
- ④「自然環境の豊かさ」は居住し続けている理由としては選択されないが、若年層のお気に入りの場所として、「彩湖・道満グリーンパーク」などの「自然環境」があげられるなど肯定的に捉えられている。また、若年層のお気に入りの場所には、「自然環境」とイオンなど「ショッピングセンター」のみならず、チェーン店とは異なる「喫茶店・カフェ」などが指摘されている(5章)。
- ⑤消費行動は、基本的に戸田市内を前提とし、その上で都心が位置づけられており、戸田市内の商業施設、とりわけ駅周辺や日常的に立ち寄れる喫茶店・カフェなどへの需要が高い(6章)。
- ⑥若年層は戸田市内の人づきあいなどを求めているわけではなく、むしろ現状に不満を抱いており、人間関係構築の機会を求めている(7章)
- ⑦若年層の地域への関心の高い傾向にあり、「まちづくり機会の充実」や「地域活動への参加のしやすさ」など若年層の「まちづくり意識」を基盤にしたまちづくりの可能性も見出せる(8章)。

それゆえに、自由記述で得られた「不満」は、決して戸田市への定住意向の低さを意味しているわけではなく、「今後、より住みやすい戸田市」への関心を示唆しているとも考えられる。そこで、本中間報告書では、「自由記述」(問28)に記された「戸田市の問題点」「戸田市へ期待すること」の内容を適宜、活用しながら若年層の戸田市に対する意識を明らかにする。本中間報告書の各章で取り上げる設問は以下の通りである。

- 2. 調査データの基礎的情報(問21、9、3、22、23、24、25、26 ※中間報告書記載順)
- 3. 戸田市への居住理由・転出理由(問1、2、5(f.g)、28 ※中間報告書記載順)
- 4. 交通インフラ(問1、2、4、28 ※中間報告書記載順)
- 5. 自然環境とお気に入りの場所(問4(a)、5(a)、17、28 ※中間報告書記載順)
- 6. 消費行動(問6(a,b)、18、19、20、28 ※中間報告書記載順)
- 7. 人間関係(問4(f)、7(f)、13、14、28 ※中間報告書記載順)
- 8. まちづくり意識(問6(c,d)、15、28 ※中間報告書記載順)

## 2. 調査回答者の基礎的情報

はじめに、本調査の回答者の基礎的情報を理解したい。その中でも、「性別」、「年齢」、「居住地区」については、戸田市の人口データ<sup>5</sup>と比較し、本調査の回答者の歪みを確認して行く。その他、戸田市の「居住歴」、「最終学歴」、「配偶者の有無」、「子どもの有無」、「子どもの年齢」、「現在の立場」について確認することとする。

### (1) 性別

問 21 あなたの年齢と性別を教えてください。

- ・ 本調査では、「女性」が 58.3%と、「男性」の 41.7%を上回る。この傾向は年齢を問わず同様。
- 2015 年 1 月時点の戸田市の人口データを比較すると、全体で 10%程度、女性の割合が高い。

図表 8 本調査の回答者の性別割合

	男性	女性	合計
20-24歳 (n=81)	40.7%	59.3%	100.0%
25-29歳 (n=118)	34.7%	65.3%	100.0%
30-34歳 (n=192)	40.1%	59.9%	100.0%
35-39歳 (n=214)	47.2%	52.8%	100.0%
全体 (n=605)	41.7%	58.3%	100.0%

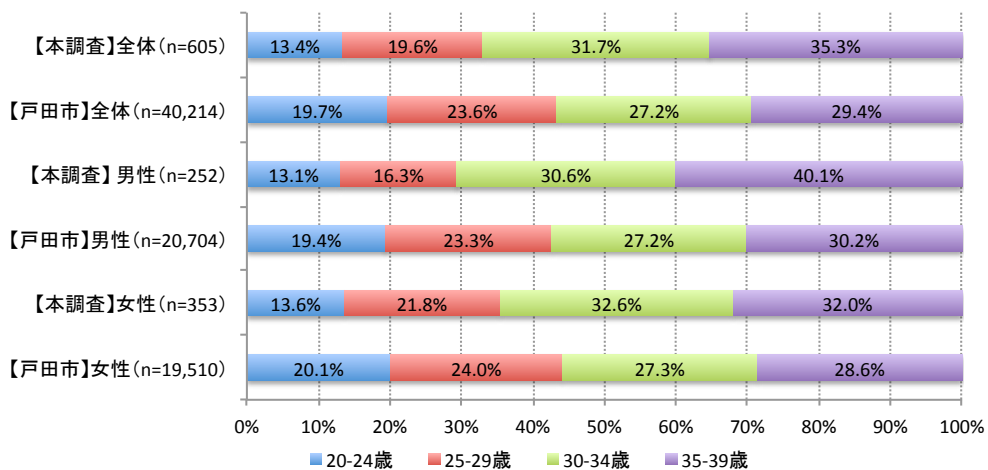
図表 9 戸田市の人口に対する性別割合

	男性	女性	合計
20-24歳 (n=7,929)	50.6%	49.4%	100.0%
25-29歳 (n=9,504)	50.7%	49.3%	100.0%
30-34歳 (n=10,954)	51.4%	48.6%	100.0%
35-39歳 (n=11,827)	52.8%	47.2%	100.0%
全体 (n=40,214)	51.5%	48.5%	100.0%

### (2) 年齢別

問 21 あなたの年齢と性別を教えてください。

- ・ 年齢別にみると、性別を問わず「35~39歳」(男性: 40.1%、女性: 32.0%)、「30~34歳」(男性: 30.6%、女性: 32.6%)の順に多い。
- 戸田市の人口データと比較すると、本調査の回答者は、「30歳代」の割合が高い傾向にある。



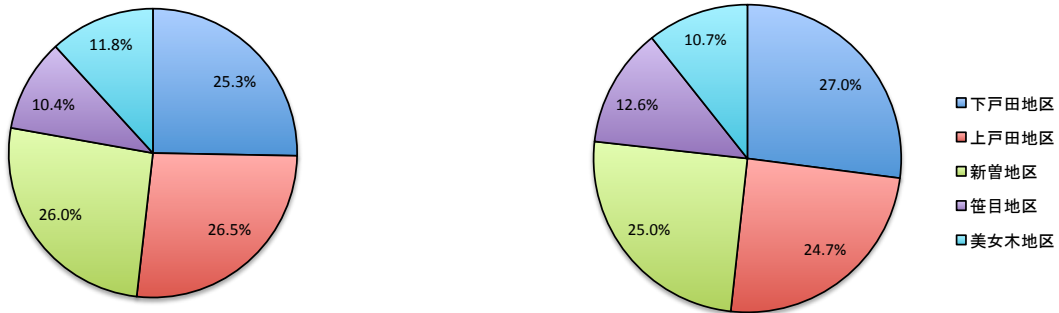
図表 10 戸田市の人口と本調査の回答者の年齢カテゴリーの割合の比較

<sup>5</sup> 戸田市 HP オープンデータ・統計 人口統計速報 (2015 年 12 月 1 日) (<https://www.city.toda.saitama.jp/site/opendata/jinkou-2015.html> 最終アクセス 2016 年 2 月 15 日)。(2)、(3) も上記よりデータを確認した。

### (3) 地区別

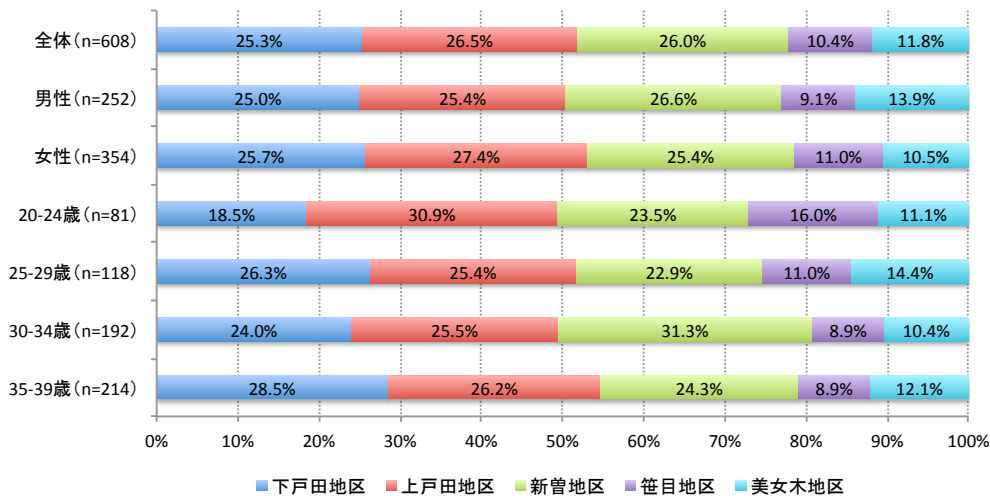
問9 現在のお住まいの地区を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- ・ 居住地区は、下戸田地区（25.3%）、上戸田地区（26.5%）、新曽地区（26.0%）、笹目地区（10.4%）、美女木地区（11.8%）の順。
- 戸田市の人口データと比較すると、上戸田地区、新曽地区、美女木地区の割合が若干多い。
- 性別に見ると、女性で上戸田地区に居住している人の回答割合が高い。
- 年代で見ると、20-24歳で上戸田地区が多く、30-34歳で新曽地区に居住している人が多い。



図表 11 本調査の回答者の居住地区 (n=608)

図表 12 戸田市の人口に対する居住地区割合 (n=40,214)

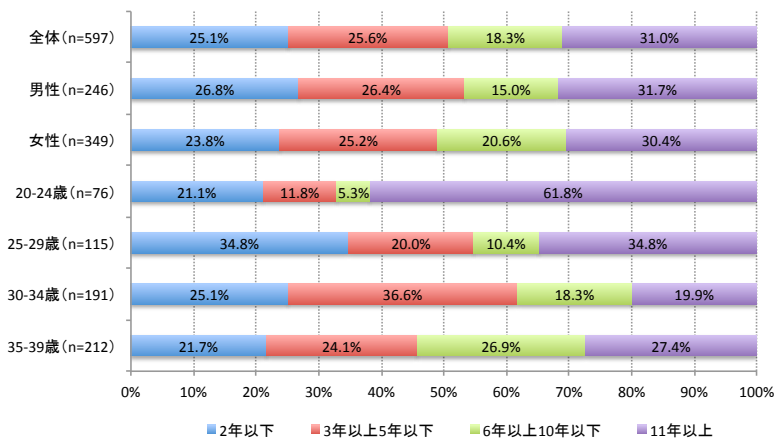


図表 13 本調査の回答者の居住地区 (性別・年代別)

#### (4) 居住年数

問3 あなたの戸田市での居住歴を教えてください（6ヶ月以上は繰り上げて教えてください）。

- ・ 回答者の「居住年数」は、50.7%が「5年以下」と、戸田市の居住歴が短い傾向。
- ・ 性別に見ると、男性の方が若干「5年以下」の割合が高いものの、性別による大きな差は見られない。
- ・ 年代別に見ると、「20-24歳」では、他の年代と異なり、61.8%が「11年以上」の居住歴となっており、戸田市で生まれ育った人が多いことが読み取れる。
- ・ 「25-29歳」「30-34歳」では、「5年以下」の割合が、他の年代よりも高い傾向にあり、職業上の都合や結婚などを機に戸田市に転入してきた世代であることが理解できる。

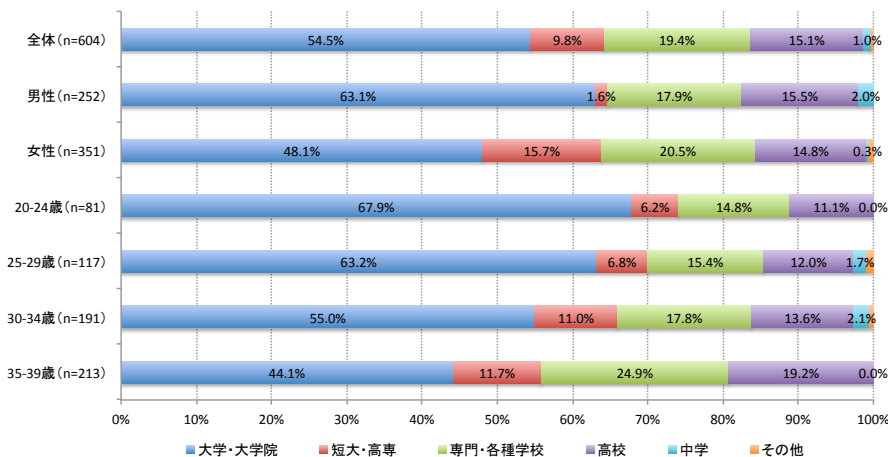


図表 14 本調査の回答者の戸田市での居住年数

#### (5) 最終学歴

問22 あなたが最後に通った学校について、以下の中で当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- ・ 回答者の「最終学歴」は、「大学・大学院」が54.5%、「短大・高専」の9.8%となっている。
- ・ 性別で見ると、「女性」で「短大・高専」が15.7%となっており、「性別」による高校卒業後の進路の差異が読み取れる。
- ・ 年齢別で見ると、「35-39歳」では44.1%であるのに対して、「30-34歳」で55.0%、「25-29歳」で63.2%、「20-24歳」で67.9%と若い人ほど、「大学・大学院」へ通っている。

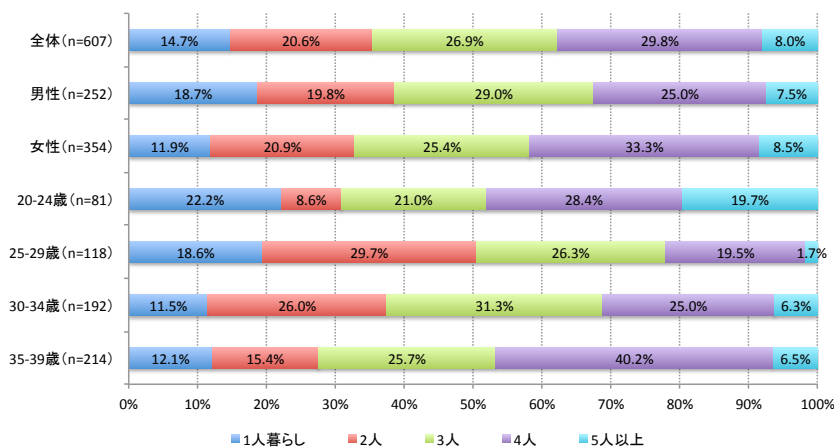


図表 15 本調査の回答者の最終学歴

## (6) 同居する家族・配偶者・子どもの有無

問 23 同居されているご家族の人数(あなた自身を含む)を教えてください。当てはまるもの 1つに○をつけて下さい。

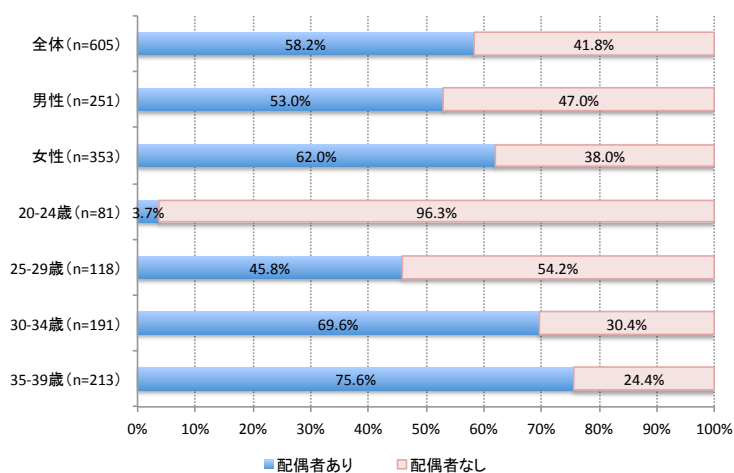
- ・ 「同居する家族」は、「1人暮らし」(24.7%)、2人(20.6%)、3人(26.9%)、4人(29.8%)と4人以下で90%を超える。
- ・ 性別に見ると、「女性」では「4人」(33.3%)、「男性」では「3人」(29.0%)の割合が高い。
- ・ 年齢別に見ると、ライフステージに応じた同居家族の姿が浮かび上がる。



図表 16 本調査の回答者の同居する家族の人数

問 24 現在、あなたに配偶者(夫または妻)はいらっしゃいますか。

- ・ 全体では、58.2%の人が、現在、「配偶者」がいると回答。
- ・ 性別に見ると、女性が62.0%と男性の53.0%よりも9ポイント高い傾向。
- ・ 年齢別に見ると、「20-24歳」では3.7%であるが、年齢が上がるごとに「配偶者」がいると回答する人は増加し、「30-34歳」では69.6%、「35-39歳」では75.6%に達している。

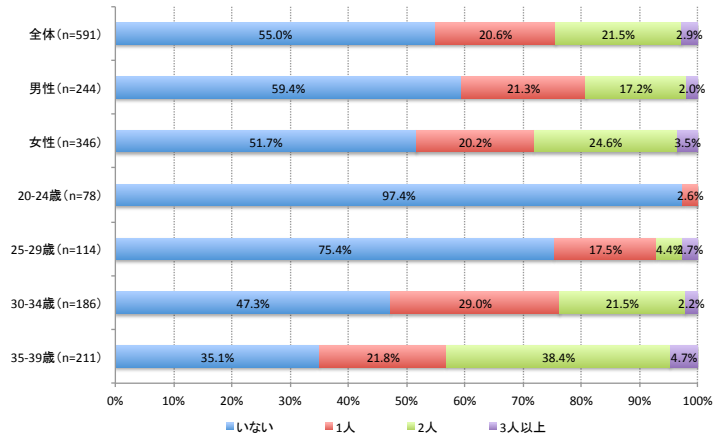


図表 17 本調査の回答者の「配偶者の有無」



問 25 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。

- ・ 「子どもの数」は、「いない」が 55.0%、「1人」が 20.6%、「2人」が 21.5%となっている。
- ・ 性別に見ると、「女性」の方が「子どもがいる」人の割合が高い。
- ・ 年齢別に見ると、年齢が上がるごとに「子どもがいる」と回答する人の割合が高まり、子どもが「2人」いる人は、ほぼ 30 歳以上の人となっている。



図表 18 本調査の回答者の「子どもの数」

### (7) 現在の立場

問 26 あなたの現在の立場を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- ・ 「現在の立場」は、54.8%の人が「正社員・正職員」と回答（男性は 73.9%、女性は 41.2%）。
- ・ 性別に見ると、「女性」では、23.9%が「専業主婦」、15.3%が「パート・アルバイト」。
- ・ 年齢別に見ると、「20-24 歳」は「学生」（38.8%）と「正社員・正職員」（40.0%）に二分している。

図表 19 本調査の回答者の「現在の立場」

	正社員・正職員	自営業・自由業	契約社員・嘱託	派遣社員	パート・アルバイト		
全体 (n=606)	54.8%	3.5%	4.3%	2.1%	11.9%		
男性 (n=253)	73.9%	3.6%	3.6%	0.8%	7.1%		
女性 (n=352)	41.2%	3.4%	4.8%	3.1%	15.3%		
20-24歳 (n=80)	40.0%	1.3%	2.5%	3.8%	11.3%		
25-29歳 (n=119)	58.8%	0.8%	6.7%	1.7%	14.3%		
30-34歳 (n=192)	58.3%	3.6%	4.7%	1.6%	12.5%		
35-39歳 (n=213)	54.9%	5.6%	3.3%	2.3%	10.3%		
	家族従業員	会社経営・役員	専業主婦(主夫)	学生	無職	その他	
全体 (n=606)	5.0%	1.0%	13.9%	5.8%	1.7%	0.7%	
男性 (n=253)	0.4%	2.4%	0.0%	7.9%	0.4%	0.0%	
女性 (n=352)	0.6%	0.0%	23.9%	4.3%	2.3%	1.1%	
20-24歳 (n=80)	0.0%	0.0%	0.0%	38.8%	1.3%	1.3%	
25-29歳 (n=119)	0.0%	0.0%	10.9%	3.4%	2.5%	0.8%	
30-34歳 (n=192)	1.0%	1.0%	15.6%	0.0%	1.0%	0.5%	
35-39歳 (n=213)	0.5%	1.9%	18.8%	0.0%	1.9%	0.5%	

以上、本調査の回答者の基礎的情報を確認してきた。続く各章では、戸田市への定住理由・転出理由（3章）、交通インフラ（4章）、自然環境とお気に入りの場所（5章）、消費行動（6章）、人間関係（7章）、まちづくり意識（8章）について、結果を提示する。

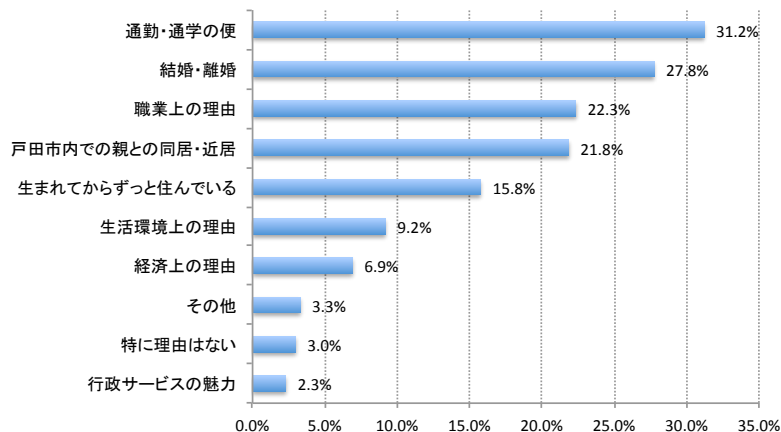
### 3. 戸田市への居住理由・転出理由

本章では、20代・30代の若年層の戸田市への居住理由・転出理由に関する結果を確認する。注目すべき点は、①「通勤・通学の便」が居住理由であるのはもちろんのこと、転出を考える際の理由にもなり得ること、②定住意向は全体的に高いものの、定住意向と戸田市での労働意向を重ねると性別・年代によって差異が生じる点である。

#### (1) 戸田市に住むようになった理由

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ・ 図表 20 より、「戸田市に住むようになった理由」のトップは「通勤・通学の便」で 31.2%。次いで、「結婚・離婚」(27.8%)、「職業上の理由」(22.3%)と続く。
- ・ 図表 21 より、上位5番目までの回答率となった「通勤・通学の便」「結婚・離婚」「職業上の理由」「戸田市内での親との同居・近居」「生まれてからずっと住んでいる」について、性別・年齢別では、①性別では、「男性」は「職業上の理由」(25.7%)が最も多く、女性では「結婚・離婚」(29.4%)が最も多い。
- ②年齢別で見ると、「20-24歳」の37.5%が「生まれてからずっと住んでいる」と回答している。その他の年齢では、「通勤通学の便」「結婚・離婚」「職業上の理由」の順に続く。



図表 20 戸田市に住むようになった理由 (n=609)

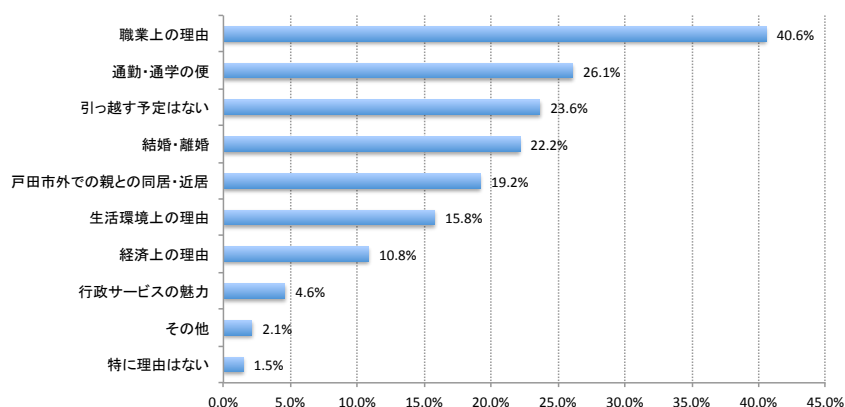
図表 21 戸田市に住むようになった理由（上位5番目まで）の性別・年齢別回答割合

		通勤・通学の便	結婚・離婚	職業上の理由	戸田市内での親との同居・近居	生まれてからずっと住んでいる
性別	男性(n=253)	31.6%	25.3%	25.7%	23.3%	16.2%
	女性(n=354)	31.1%	29.4%	19.8%	20.9%	15.3%
年齢	20-24歳(n=81)	19.8%	3.7%	19.8%	48.1%	37.0%
	25-29歳(n=119)	27.7%	21.8%	26.9%	26.9%	15.1%
	30-34歳(n=192)	34.9%	35.4%	22.9%	14.1%	12.0%
	35-39歳(n=214)	34.1%	33.6%	20.1%	16.4%	11.2%

## (2) 戸田市から転出を考える際の理由

問2 あなたが戸田市外へ引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ・ 図表 22 より、「戸田市から転出を考える際の理由」のトップは、「職業上の理由」で、40.6%。次いで、「通勤・通学の便」(26.1%)、「引っ越す予定はない」(23.6%)の順。
  - 転出の可能性としての就職や転勤などの「職業上の理由」があげられる。次いで、「通勤・通学の便」があげられる点は、「交通アクセス」に若年層が問題を抱えていることを示唆する。
  - 一方で、「引っ越す予定はない」が高い割合にあることから、今すぐに転出することを若年層は考えているわけではないことも示唆される。
- ・ 図表 23 より、全体で上位5番目までの回答率となった「職業上の理由」「通勤・通学の便」「引っ越す予定はない」「結婚・離婚」「戸田市外での親との同居・近居」について、性別・年齢別にみると、
    - ① 性別では、「男性」は職業との関連（「職業上の理由」が47.6%、「通勤・通学の便」が31.7%）が強く、「女性」は、「職業上の理由」(35.9%)について、「結婚・離婚」(26.8%)が続いている。また、「引っ越す予定はない」は女性の方が回答する割合が高い。
    - ② 年齢別で見ると、年齢を問わず、「職業上の理由」が高い割合を示しており、20代では「結婚・離婚」が高い割合を示していることから、ライフイベントとの関連で、戸田市からの転出を考えていることが読み取れる。



図表 22 戸田市から転出を考える際の理由 (n=609)

図表 23 戸田市から転出を考える際の理由（上位5番目まで）の性別・年齢別回答割合

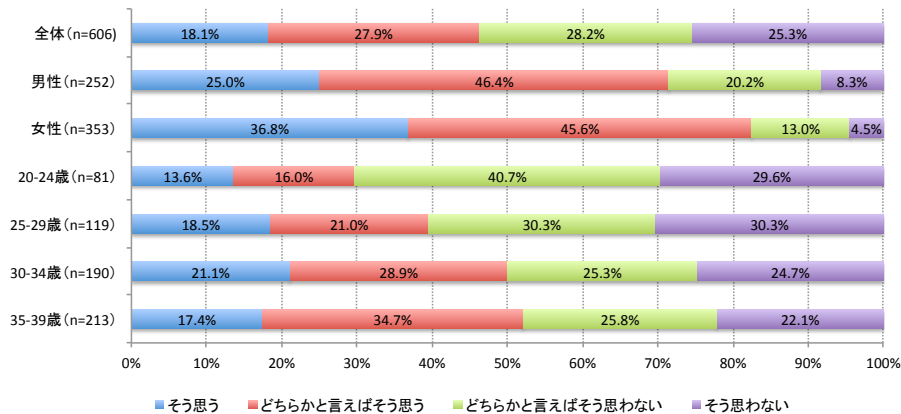
		職業上の理由	通勤・通学の便	引っ越す予定はない	結婚・離婚	戸田市外での親との同居・近居
性別	男性 (n=252)	47.6%	31.7%	17.1%	15.9%	17.5%
	女性 (n=354)	35.9%	22.3%	28.0%	26.8%	20.6%
年齢	20-24歳 (n=81)	64.2%	28.4%	11.1%	40.7%	8.6%
	25-29歳 (n=119)	42.0%	26.9%	19.3%	31.1%	14.3%
	30-34歳 (n=191)	30.4%	25.1%	28.3%	18.8%	26.2%
	35-39歳 (n=214)	40.7%	26.2%	26.6%	13.1%	20.1%

### (3) 戸田市での労働志向と定住意向

#### ① 戸田市での労働志向

問5 あなたは戸田市で生活をする上で、以下の点についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい (f. できることなら戸田市で働きたい)。

- ・ 「戸田市での労働志向」は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計46%。
- 性別に見ると、「女性」が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計で82.4%となり、男性の71.4%と比較しても、戸田市での労働志向が高い。
- 年齢別に見ると、「20-24歳」は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が29.6%に過ぎないのに対して、30代になると50%を超える割合となっている。

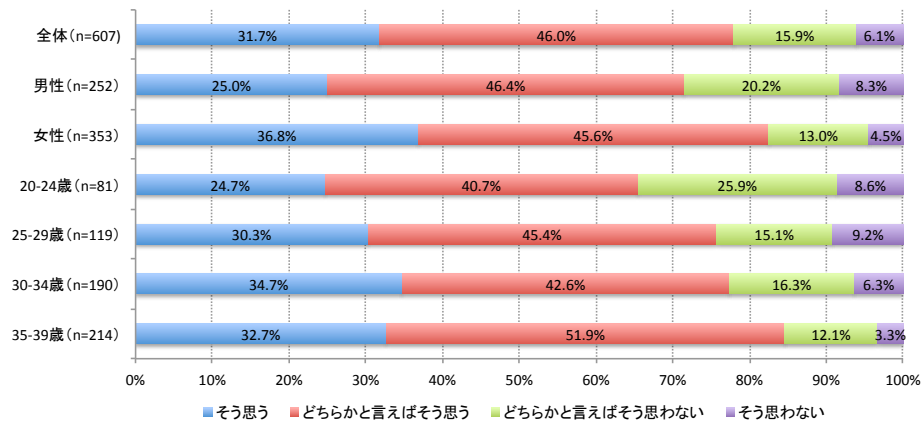


図表 24 戸田市での労働志向

#### ② 戸田市への定住意向

問5 あなたは戸田市で生活をする上で、以下の点についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい (g. 今後も戸田市に住み続けたい)。

- ・ 「戸田市への定住意向」は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が77.7%と非常に高い傾向を示した。
- 性別で見ると、「女性」が「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計が82.4%と男性(71.4%)よりも定住志向が高い結果となった。
- 年齢別では、「20-24歳」の定住意向が65.4%と最も低く、「35-39歳」は、84.6%と最も高い結果となった。これは、本調査の回答者数で30代の女性の割合が高いことと関連していると考えられる



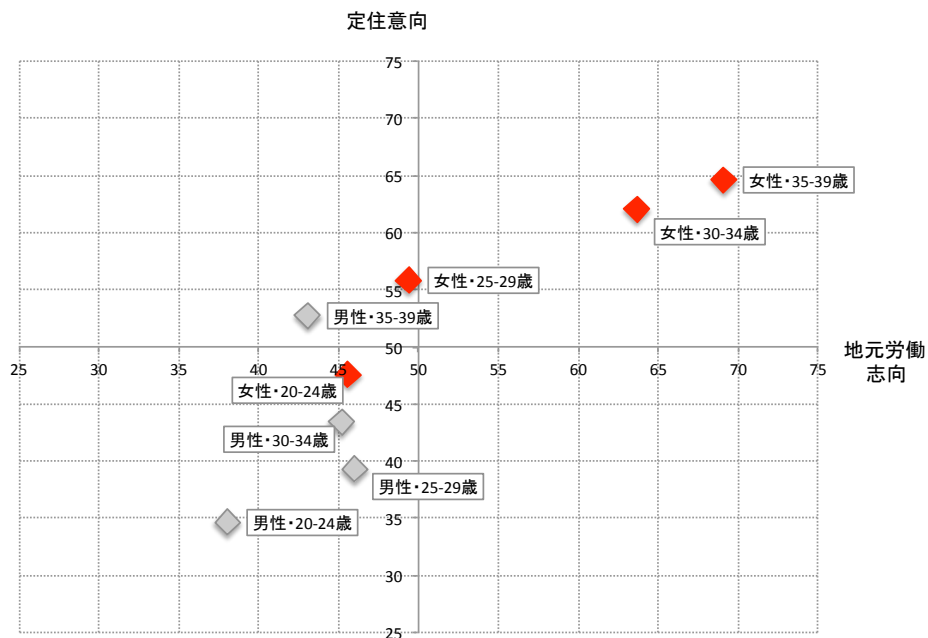
図表 25 戸田市への定住意向

### ③地元労働志向と定住意向の関連

①の回答、②の回答を「そう思う」を4点、「どちらかと言えばそう思う」を3点と順に4点満点で得点化し、その性別×年齢カテゴリ別の平均得点をもとに偏差値化した分布が図表26である。

グループ①（地元労働志向【高】かつ定住意向【高】）：「女性・30-34歳」「女性・35-39歳」  
 グループ②（地元労働志向【低】かつ定住意向【高】）：「男性・35-39歳」「女性・25-29歳」  
 グループ③（地元労働志向【低】かつ定住意向【低】）：「男性・20-24歳」「男性・25-29歳」  
 「男性・30-34歳」「女性・20-24歳」

－ 全体的に「定住意向」が高いことは前提であるが、性別及び年代によってその傾向が異なっている。例えば、男性及び20代（グループ②、③）は就職、結婚などのこれからのライフイベントとの関連で定住意向・地元労働志向が低い傾向にあると考えられる。また、「男性・35-39歳」や女性（グループ①、②）は、子育てとの関連で、定住意向が高まっていると考えられる。



図表 26 地元労働志向と定住意向の関連

図表 27 地元労働志向と定住意向の関連（詳細）

【できることなら戸田市で働きたい】(4点満点)			【今後も戸田市に住み続けたい】(4点満点)		
	平均得点	偏差値		平均得点	偏差値
男性・20-24歳	2.03	38.0	男性・20-24歳	2.67	34.6
男性・25-29歳	2.22	46.0	男性・25-29歳	2.76	39.3
男性・30-34歳	2.20	45.2	男性・30-34歳	2.84	43.4
男性・35-39歳	2.15	43.1	男性・35-39歳	3.02	52.7
女性・20-24歳	2.21	45.6	女性・20-24歳	2.92	47.5
女性・25-29歳	2.30	49.4	女性・25-29歳	3.08	55.8
女性・30-34歳	2.64	63.6	女性・30-34歳	3.20	62.0
女性・35-39歳	2.77	69.1	女性・35-39歳	3.25	64.6
平均值(全体)	2.32	標準偏差 0.238	平均值(全体)	2.97	標準偏差 0.193

#### 4. 交通インフラ

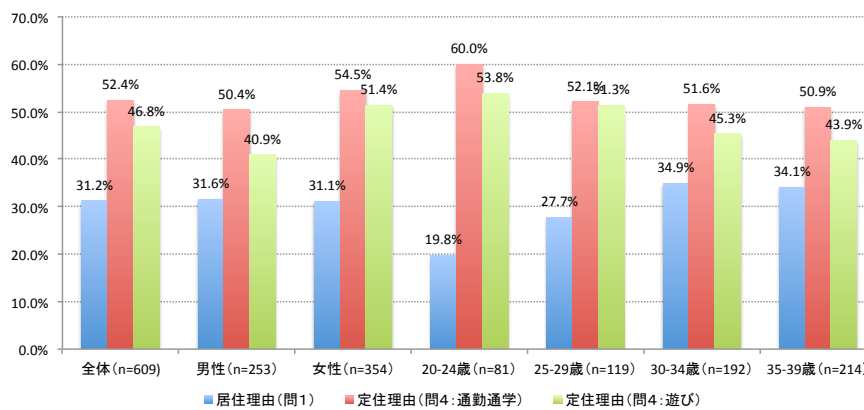
本章では、戸田市への居住理由・転出理由であげられた「交通アクセス」の問題に焦点を当てる。

##### (1) 居住理由としての交通アクセスの利便性

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

問4 あなたが戸田市に居住し続けている理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- すべてのカテゴリーにおいて、「戸田市に住むようになった理由」として、「都心への交通アクセス（通勤・通学）」は30%前後であるが、「戸田市に住み続けている理由」になると、50%前後まで上昇。
- 「都心への交通アクセス（遊び）」は、通勤通学よりも回答率が低い傾向にはあるが、女性及び20代では50%前後と高い回答率を示している。



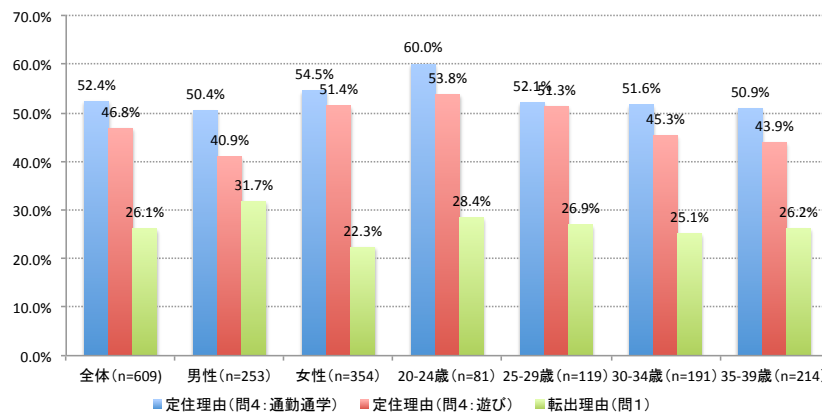
図表 28 戸田市へ住むようになった理由と住み続けている理由（交通アクセス）

##### (2) 転出理由としての交通アクセスの問題

問4 あなたが戸田市に居住し続けている理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

問2 あなたが戸田市外へ引っ越しとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- すべてのカテゴリーにおいて、定住理由として「交通アクセス（通勤・通学）」が50%前後、「交通アクセス（遊び）」が40%台の回答率であり、戸田市の魅力と考えられる。一方で、今後、転出を考える理由として「交通アクセス」は30%前後の回答率であり、特に男性では31.7%と高い割合。
- 「都心への交通アクセス」の問題は、「居住理由」でもあり、「転出理由」ともなっている。では、年齢・性別によって、「交通アクセス」がどのように捉えられているのかを次に見てみよう。



図表 29 戸田市に住み続けている理由と転出を考える際の理由（交通アクセス）

### (3) 居住理由／転出理由としての交通アクセス

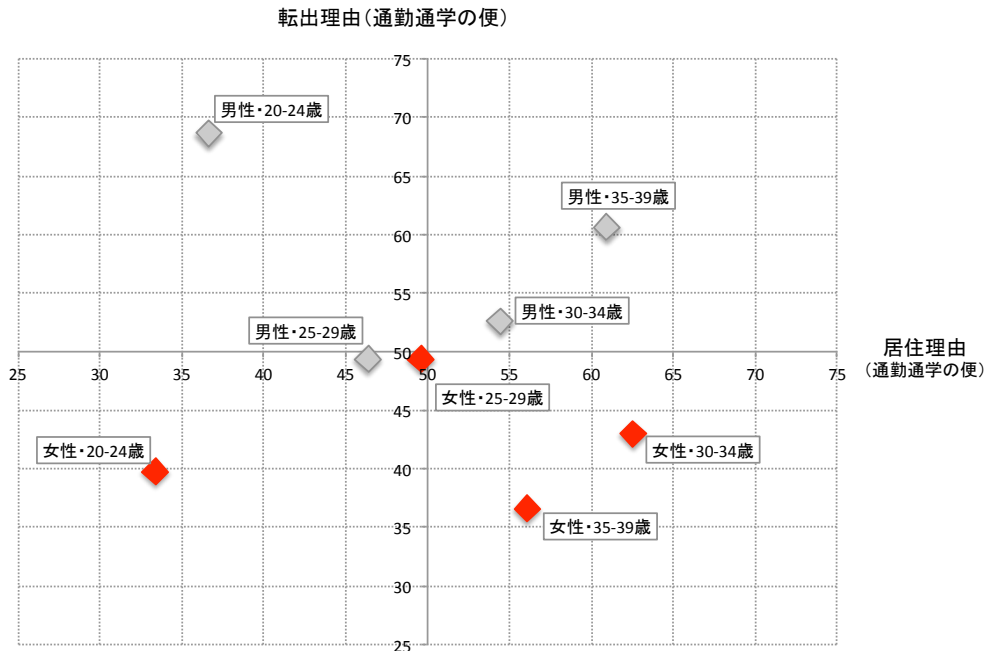
(1)、(2)の性別×年齢カテゴリー別の平均回答率をもとに偏差値化した分布が図表30である。

#### ①居住理由と転出理由

- ・【居住理由】「20-24歳」は男女ともに居住理由として「交通アクセス」をあげる割合が低く、年齢が上がるにつれて上昇する傾向にある。
- ・【転出理由】「交通アクセス」を戸田市からの転出理由としてあげるのは、男性に偏っている。

#### ②居住理由と転出理由の関係性

- ・「男性」は、総じて「転出理由」として「通勤通学の便」を選択する傾向があるが、30代は「居住理由」としても「通勤通学の便」が選択される傾向があり、両義的である。
- ・「女性」は、総じて「転出理由」としては「通勤通学の便」が選択されにくい傾向にあるが、「20-24歳」を除き、「居住理由」として「通勤通学の便」が選択される傾向にある。



図表30 居住理由／転出理由としての「通勤通学の便」

図表31 居住理由／転出理由としての「通勤通学の便」(詳細)

【居住理由(通勤通学の便)】(○がついたら1点)

	平均回答率	偏差値
男性・20-24歳	0.21	36.6
男性・25-29歳	0.27	46.4
男性・30-34歳	0.32	54.5
男性・35-39歳	0.36	60.9
女性・20-24歳	0.19	33.4
女性・25-29歳	0.29	49.6
女性・30-34歳	0.37	62.5
女性・35-39歳	0.33	56.1

【転出理由(通勤通学の便)】(○がついたら1点)

	平均回答率	偏差値
男性・20-24歳	0.39	68.6
男性・25-29歳	0.27	49.4
男性・30-34歳	0.29	52.6
男性・35-39歳	0.34	60.6
女性・20-24歳	0.21	39.8
女性・25-29歳	0.27	49.4
女性・30-34歳	0.23	43.0
女性・35-39歳	0.19	36.6

平均値(全体)	標準偏差
0.29	0.062

平均値(全体)	標準偏差
0.27	0.062



#### (4) 戸田市における交通アクセスの問題

以上、戸田市の若年層における「交通アクセス」への意識を概観してきた。その結果、浮かび上がってきたことは、戸田市の地理的条件とも関連する「都心への交通アクセスの良さ」は、若年層を誘引する利点となっているが、一方で、戸田市からの転出を考える際の理由ともなっている点である。では、市内の中心を JR 埼京線が縦断し、都心まで 20 分程度で往来が可能である利便性が、なぜ、転出を考える際の理由となってしまうのだろうか。この矛盾について、問 28 の自由記述の一例からポイントを抽出すると、以下の通りである。

##### ①埼京線に対する不満

- 通勤快速が戸田公園駅を通過してしまう。
- 埼京線の快速が戸田駅に停まらない。
- 埼京線の混雑と本数。
- 埼京線の各駅停車の本数が少ない。
- 電車の終電時間をもう少し遅くなるといい。終電が早すぎる。通勤快速が停まるとよい。

##### ②市内の交通手段の問題

- toco バスが 1 時間に 1 本は少ない。北戸田駅からのバスが少ない。
- 埼京線の駅が不便すぎる。戸田公園駅が最寄だが、バスはなく (toco バスは 8:00~18:00 まで、通勤には利用できない)、どうしてもバス便の良い川口駅へ行かざるを得ず、仕事帰りに戸田市内で買い物ができる状況になり。いくら駅ビル、駅周辺を開発してもこれでは無駄。
- 車を持っていないので駅から徒歩で行ける範囲だけしか動けない。東西の移動が不便。
- 東西への交通の便が悪い。バスなど本数を増やす等すれば、その間に商業施設等もできるのでは。

つまり、戸田市の若年層は、戸田市の交通アクセスに対して、①戸田市と都心をつなぐ埼京線に対する不満、②戸田市内の移動に対する不満を抱いていることが理解できた。若年層の転出可能性の理由に「交通アクセス」があげられるのは、「戸田市-東京の交通問題」、「戸田市内の交通問題」の 2 つの要因が重なった結果として読み取れる。



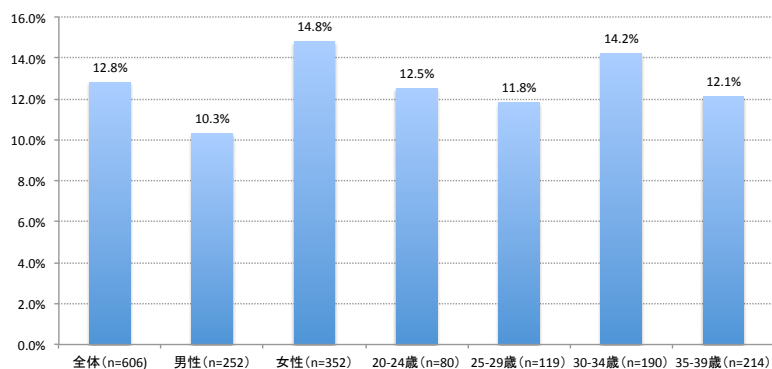
## 5. 自然環境とお気に入りの場所

本章では、戸田市のアピールポイントとしても語られる「自然環境」についての意識及び戸田市内でのお気に入りの場所を確認して行く。注目すべき点は、①「お気に入りの場所」が、自然環境と商業空間の2つに別れる結果となったこと、②戸田市内のチェーン店とは異なる店舗が回答された点である。ここから、20代・30代の若年層が日常的に何を求めているのかを考えていく。

### (1) 戸田市の自然環境へのイメージ

問4 あなたが戸田市に居住し続けている理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい (a.自然環境が豊か)。

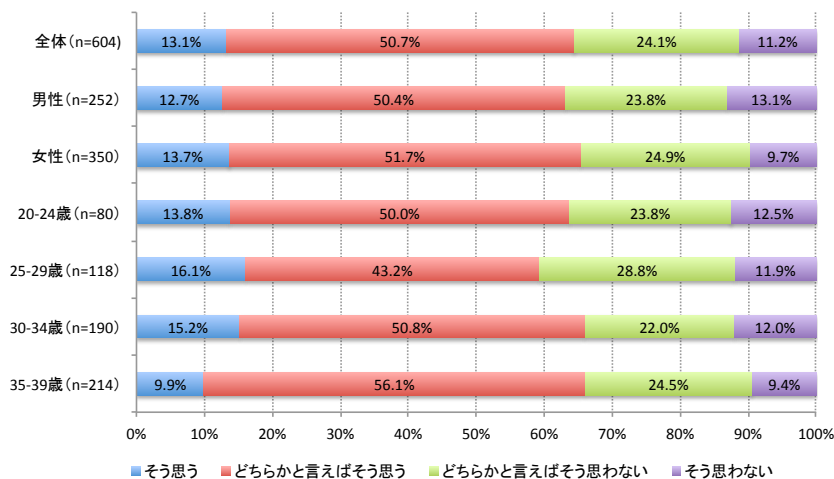
- ・ 「戸田市に居住し続けている理由」として、「自然環境が豊か」を回答する人は12.8%に過ぎない。
- 性別で見ると、「女性」が14.8%と「男性」より回答率が高い。
- 年齢別で見ると、「30-34歳」が14.2%で他の年齢よりも回答率が高い。



図表 32 戸田市に居住し続けている理由 (自然環境が豊か)

問5 あなたは戸田市で生活をする上で、以下の点についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい (a. 自然環境が豊か)。

- ・ 「戸田市に居住し続けている理由」として「自然環境が豊か」を選択する人は10%前後であるが、「戸田市の自然が豊かだと思う」は、全体で、63.8% (「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の合計)。
- 性別、年齢別で見ても、上記の傾向は大きく変わらない。
- 戸田市の「自然環境の豊かさ」は若年層に認知されてはいるが、居住理由には至っていない。

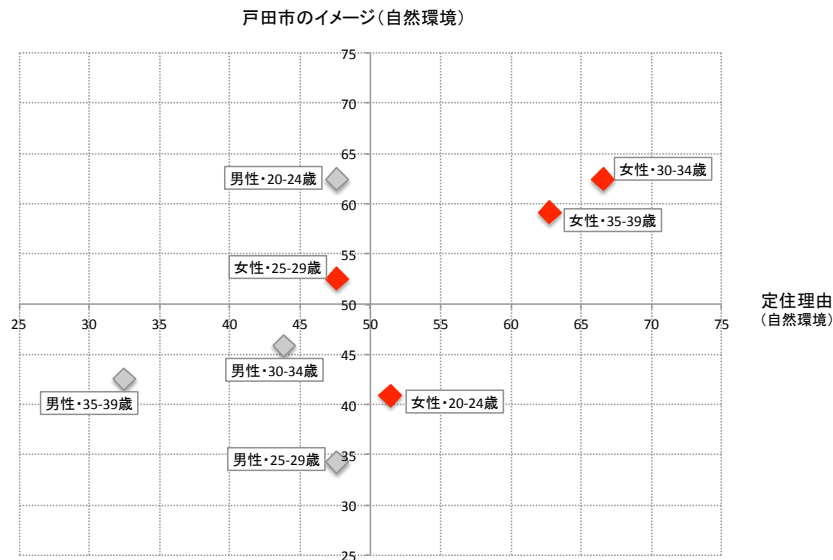


図表 33 戸田市に対するイメージ (自然環境が豊か)

## (2) 居住理由としての自然環境の豊かさの位置

「居住し続けている理由」としての「自然環境の豊かさ」の回答率、「戸田市のイメージ」における「自然環境の豊かさ」の得点（「そう思う」を4点、「どちらかと言えばそう思う」を3点とする4点満点）について、性別×年齢カテゴリ別の偏差値を分布したものが図表 35 である。

- ・ 30代の女性は、戸田市の自然環境へのイメージが肯定的であり、定住理由にも結びついている。
  - ・ 20代の男女はともに、戸田市の自然環境へのイメージは肯定的であるが、定住理由としては考えられていない。
  - ・ 男性の25歳以上は、戸田市の自然環境へのイメージが否定的であり、定住理由としても考えられていない。
- － 「自然環境の豊かさ」は、子育て世代の女性にとっては「定住理由」となりうる。



図表 34 「定住理由」としての自然環境と戸田市の自然環境へのイメージ

図表 35 「定住理由」としての自然環境と戸田市の自然環境へのイメージ（詳細）

【定住理由(自然環境)】(〇がついたら1点)

	平均回答率	偏差値
男性・20-24歳	0.12	47.6
男性・25-29歳	0.12	47.6
男性・30-34歳	0.11	43.9
男性・35-39歳	0.08	32.5
女性・20-24歳	0.13	51.4
女性・25-29歳	0.12	47.6
女性・30-34歳	0.17	66.6
女性・35-39歳	0.16	62.8

【戸田市のイメージ(自然環境)】(4点満点)

	平均得点	偏差値
男性・20-24歳	2.73	62.4
男性・25-29歳	2.56	34.3
男性・30-34歳	2.63	45.9
男性・35-39歳	2.61	42.6
女性・20-24歳	2.60	40.9
女性・25-29歳	2.67	52.5
女性・30-34歳	2.73	62.4
女性・35-39歳	2.71	59.1

平均値(全体)	標準偏差
0.13	0.026

平均値(全体)	標準偏差
2.66	0.060

### (3) 戸田市内のお気に入りの場所：自然環境と消費空間

先の結果を踏まえると、戸田市の「自然環境の豊かさ」は、認識はされつつも「定住理由」には至っていない。では、若年層は戸田市内で、どのような場所に愛着を持っているのだろうか。その点を問17の自由記述から見ていきたい。

問17 戸田市内の中で、あなたのお気に入りの場所をご自由に記入して下さい(公園・店舗名など何でも構いません)。

\*回答数は439。各自由記述の中で複数の場所の記述があったため、以下は実数で表記する。

- ・ 自由記述に含まれる「お気に入りの場所」を分類すると、大カテゴリーでは、荒川、彩湖・道満グリーンパークなどの「自然・公園・スポーツ」、イオンなどの「ショッピングセンター・スーパー」と続く。この結果は、『戸田市若年世帯意識調査成果報告書』(2012年)とも重なる。
- ・ その他、大カテゴリーでは、戸田市内の「飲食店・カフェ・商業施設」「公共施設・インフラ・行政関連」が記述されている(詳細は、図表37~40までを参照)。
- ー 本調査において注目すべきは、日常的に立ち寄る飲食店やカフェが記述された点である。この結果は、若年層が「居心地の良さ」を感じる場所として、チェーン店とは異なる、身近な「居場所」を求めていることを示唆していると考えられる。

図表36 戸田市内での「お気に入りの場所」(大カテゴリー)

場所	回答数
ショッピングセンター・スーパー	165
飲食店・カフェ・商業施設	87
自然・公園・スポーツ	200
公共施設・インフラ・行政関連	86
その他	18

図表37 「お気に入りの場所」(SC・スーパーなど)  
【上位5番目まで】

場所	回答数
イオン	113
スーパーバリュー	15
戸田公園ビーンズ	14
イトーヨーカドー	10
ララガーデン	10

図表38 「お気に入りの場所」(飲食店など)  
【上位5番目まで】

場所	回答数
Cafe SHIBAKEN	15
まめしばコーヒー	6
石釜パン工房 暖家	5
Pizzeria Ohsaki	5
百歩ラーメン	5

図表39 「お気に入りの場所」(自然・公園など)<sup>6</sup>  
【上位5番目まで】

場所	回答数
荒川(河川敷・土手)	68
道満グリーンパーク	63
後谷公園	19
彩湖	18
ボール公園	7

図表40 「お気に入りの場所」(公共施設など)<sup>7</sup>  
【上位5番目まで】

場所	回答数
こどもの国	37
図書館	20
スポーツセンター	10
あいパル	5
プリムローズ	5
文化会館	5

<sup>6</sup> 「道満グリーンパーク」「彩湖」は、それぞれ場所として記述されているため、記述内容に即して記述している。

<sup>7</sup> 「あいパル」「プリムローズ」「文化会館」は回答件数が同数のため、全部で6つの場所を記載した。

#### (4) 若年層が戸田市内に求める場所

「Café SHIBAKEN」「まめしばコーヒー」など戸田市で展開されているカフェが「お気に入りの場所」にあげられる点に着目し、問 28 の自由記述から、若年層が戸田市に何を求めているのかを抽出してみると、以下のような内容が得られた。

- おしゃれで子連れが入りやすい飲食店が増えたらうれしい。
- 気軽に家族でいける飲食店、美味しいところが少ない。
- 飲食店が少ない。商業施設が少ない。
- 駅周辺がさみしい。ちょっとしたおしゃれなカフェやお店がほしい。
- 私たちの世代が普段利用するカフェがほぼない。スターバックスやドトールではなく、雑誌で紹介されるような個人経営のカフェ。そのため、ファミリー層でも高齢者でもない私たちの層（20～30 代のシングル女性）は都内で出かける選択をする。生活はしやすいが遊びエリアではないと感じる。

若年層は、戸田市に対して、通勤・通学の利便性を求め、消費は都心で済ませばよいと考えているわけではなく、戸田市内で気軽に立ち寄れる身近な「居場所」を求めている。この結果は、単純に大型商業施設の誘致や駅前の再開発を行政主導で行って欲しいという期待のみならず、近年、話題になっている「コミュニティカフェ」<sup>8</sup>のような誰もが立ち入れる「居場所づくり」が求められていることを示唆していると思われる。

---

<sup>8</sup> 「空き家を地域コミュニティの交差点に」、朝日新聞、2014 年 6 月 17 日 ([http://www.asahi.com/and\\_w/life/SDI2014061786201.html](http://www.asahi.com/and_w/life/SDI2014061786201.html)、最終アクセス日 2016 年 2 月 20 日)。

## 6. 消費行動

前章で、自然環境が豊かであることが必ずしも定住理由に結びついていないことを確認した。一方で、「お気に入りの場所」では、カフェなどの飲食店もあげられていることを理解した。その点を掘り下げ、20代・30代の若年層は、戸田市内での消費に何を期待しているのだろうかという点を考えてみたい。本章では、「今後力を入れて欲しい点」、「日常的に立ち寄る施設」「買物をする場所」といった普段の戸田市内での消費行動と東京都内へ出かける頻度をもとに上述した点を考える。

### (1) 今後、力を入れて欲しい点

問6 あなたは戸田市がどのような点に力を入れると、今後、より住みやすくなると思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい (a. 駅前の活性化、b. 大型商業施設の誘致)。

- ・ 「駅前の活性化」は、89.2%の人が「力を入れて欲しい」と回答しており、性別・年齢による大きな差は見られない。
- ・ 「大型商業施設の誘致」は、全体では65.3%の人が「力を入れて欲しい」と回答しているが、「25-29歳」だけが75.7%と高い回答割合を示している。
- － 大型商業施設の誘致、駅前開発への要望は高いが、自由記述を踏まえるとその内実の検討が重要。

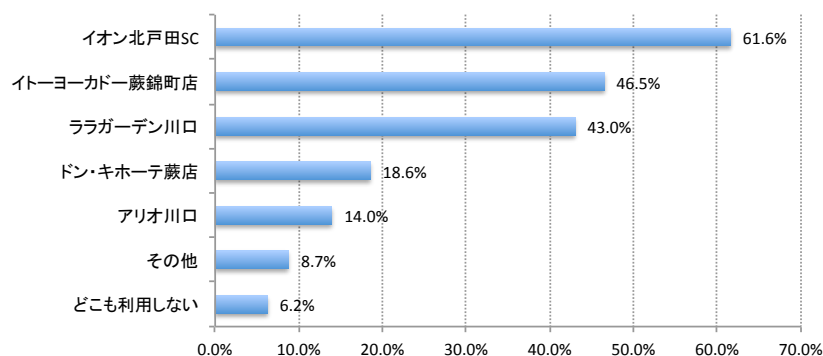
図表 41 消費空間の整備への期待（「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」の回答比率）

	駅前の活性化	大型商業施設の誘致
全体 (n=609)	89.2%	65.3%
男性 (n=252)	88.5%	64.9%
女性 (n=352)	90.1%	66.4%
20-24歳 (n=80)	86.3%	62.5%
25-29歳 (n=119)	91.6%	75.7%
30-34歳 (n=191)	91.1%	60.9%
35-39歳 (n=214)	87.9%	65.7%

### (2) 日常的に立ち寄る施設

問18 あなたが普段、よく立ち寄る商業施設を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ・ 図表 42 より、「普段、よく立ち寄る商業施設」は、「イオン北戸田 SC<sup>9</sup>」（61.6%）、「イトーヨーカドー蕨錦町店」（46.5%）、「ララガーデン川口」（43.0%）の順。
- ・ 図表 43 より、性別で見ると「男性」、年齢別で見ると「20-24歳」の人の「ドン・キホーテ蕨店」の利用率が高い。



図表 42 日常的に立ち寄る商業施設 (n=609)

<sup>9</sup> 「SC」は、ショッピングセンターの略。

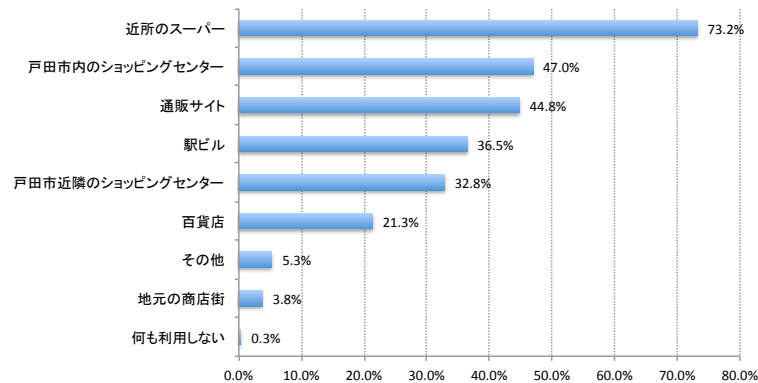
図表 43 日常的に立ち寄る商業施設（詳細）

	イオン北戸田SC	イトーヨーカドー 蕨錦町店	ドン・キホーテ 蕨店	ララガーデン川口	アリオ川口	その他	どこも利用しない
男性(n=252)	61.5%	42.5%	22.2%	38.1%	13.1%	8.3%	7.9%
女性(n=352)	62.0%	49.6%	15.9%	47.0%	14.7%	9.1%	4.8%
20-24歳(n=80)	63.7%	42.5%	28.7%	35.0%	15.0%	5.0%	5.0%
25-29歳(n=118)	58.5%	35.6%	19.5%	30.5%	15.3%	6.8%	10.2%
30-34歳(n=192)	61.5%	50.0%	20.3%	46.4%	13.0%	10.9%	4.7%
35-39歳(n=214)	64.0%	50.9%	13.1%	50.0%	14.0%	9.3%	5.6%

### (3) 買物をする場所

問 19 あなたが普段、買物をする場所を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ・ 図表 44 より、「普段、買物をする場所」は、戸田市内の「近所のスーパー」(73.2%)、「戸田市内のショッピングセンター」(47.0%)の順。
- ・ 戸田市外の商業施設である「駅ビル」は36.5%、「戸田市近隣のショッピングセンター」は32.8%、「百貨店」は21.3%と利用割合はあまり高くなく、日常的な消費は戸田市内で行っている。
- ・ 図表 45 より、①性別で見ると、「女性」の方が、戸田市外の商業施設である「百貨店」の利用率が26.3%と高い傾向にある。②年齢で見ると、20代は、戸田市内の「スーパー」や「ショッピングセンター」の利用率が低く、「男性」「35-39歳」は、「百貨店」の利用率が低い傾向にある。



図表 44 普段、買物をする場所 (n=609)

図表 45 普段、買物をする場所（詳細）

	近所のスーパー	戸田市内の ショッピングセ ンター	通販サイト	駅ビル	戸田市近隣のショッ ピングセンター	百貨店
男性(n=251)	76.9%	48.6%	44.6%	27.1%	28.3%	14.7%
女性(n=353)	71.4%	46.5%	45.0%	43.6%	36.3%	26.3%
20-24歳(n=80)	62.5%	48.8%	42.5%	45.0%	30.0%	22.5%
25-29歳(n=118)	69.5%	39.8%	43.2%	44.1%	24.6%	24.6%
30-34歳(n=191)	77.5%	47.6%	44.5%	35.6%	37.7%	24.6%
35-39歳(n=214)	77.1%	50.5%	46.7%	30.4%	35.0%	16.4%

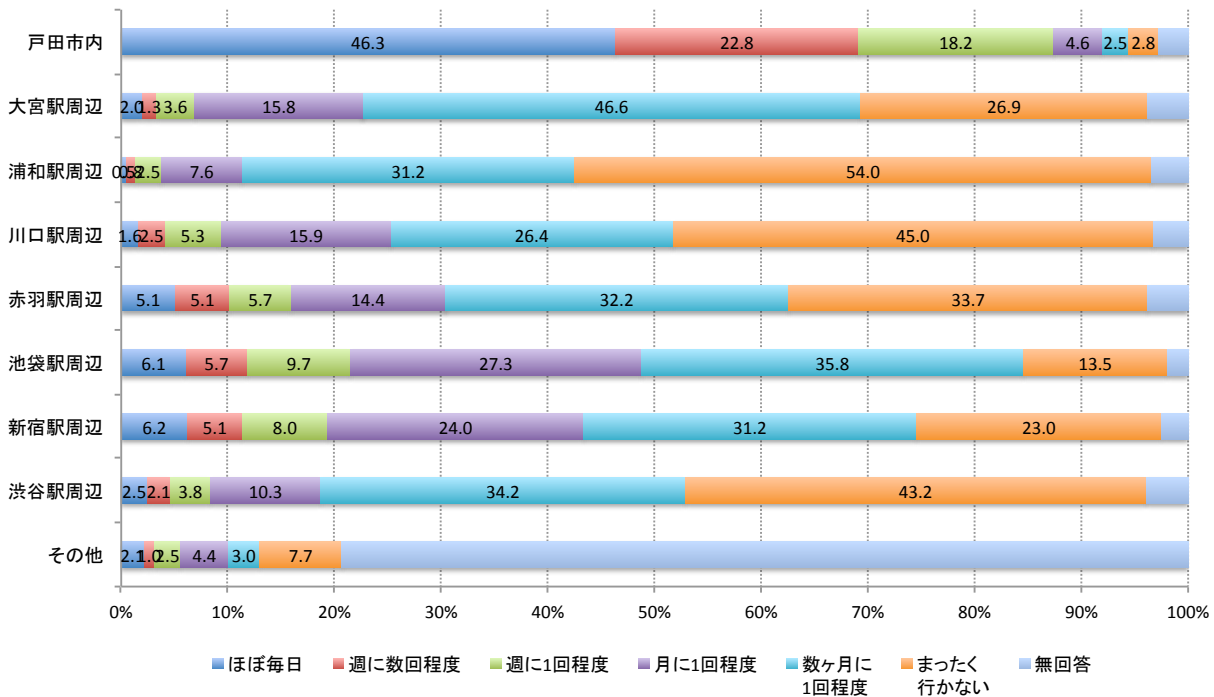
上記、(1)(2)(3)を踏まえ、若年層の戸田市とそれ以外の消費行動を理解しよう。

(4) 日常的に出かける場所

若年層が今後の戸田市に求める「大型商業施設」や「駅前開発」は、戸田市内の商業施設のあり方に対する不満の現れなのだろうか。しかし、逆説的に取れば、他のまちにはあるが、戸田市には足りていないものへの願望とも理解できる。それは、戸田市での消費行動を基盤として、他のまちと比較することで浮上する願望である。以下、戸田市内、近隣市町村、都心へ日常的に出かける頻度をもとに、上記の点を改めて検討したい。

問 20 あなたは次の地域にどのくらいの頻度で出かけますか（1人、ご友人やご家族と一緒にの場合も含めてお答え下さい）。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- ・ 戸田市内に在住の20代・30代の46.3%は「ほぼ毎日、戸田市内へ行く」と回答し、1ヶ月に1回以上までの人の割合は90%を超える。
- ・ 近隣の「大宮駅周辺」「浦和駅周辺」「川口駅周辺」へ出かける割合は低い。
- ・ 東京都内で見ると、「赤羽駅周辺」は、戸田市近隣市町村と出かける頻度は大差ないが、「池袋駅周辺」「新宿駅周辺」は、出かける頻度が高い傾向にある。
- 日常的な消費行動は、戸田市内を前提とし、近隣市町村よりも都心が優先されている。
- 若年層は、都心を中心に消費行動を展開しているわけではなく、居住地である戸田市内での消費行動を中心に行っている。したがって、若年層は、戸田市に住み続けることを視野に入れ、「大型商業施設の誘致」や「駅前の再開発」を求めていると考えられる。

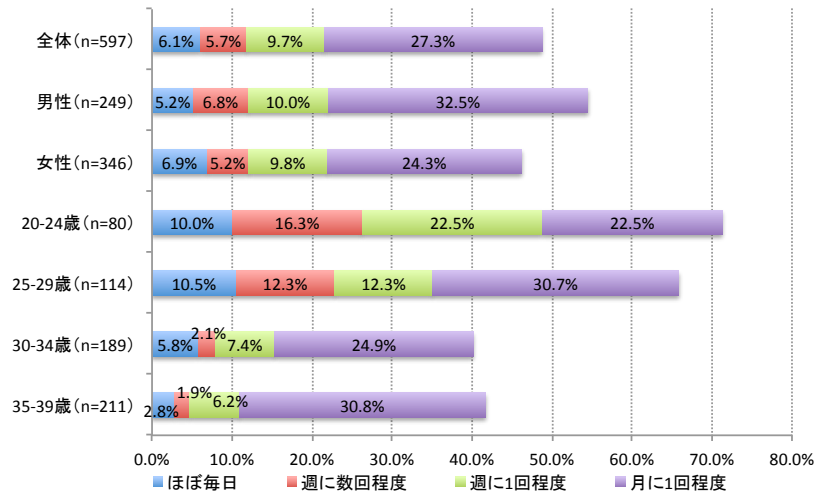


図表 46 普段、出かける地域 (n=609)

以下、戸田市以外で「普段、出かける地域」として回答率が高かった、池袋、新宿について性別、年代別の特徴を理解しよう。

### ①池袋駅周辺

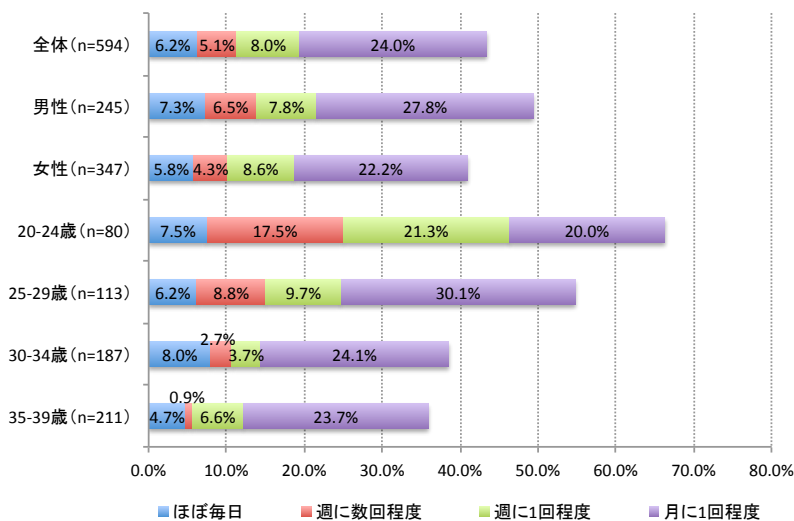
- ・ 池袋駅周辺に「月に1回程度以上」出かける人は、全体で48.8%と「新宿駅周辺」「渋谷駅周辺」よりも最も高い割合を示している。
- 性別で見ると、「男性」の方が出かける割合が高い。
- 年齢で見ると、20代は、60%を超えるのに対して30代では40%前後と、大きな差がある。



図表 47 出かける地域【池袋駅周辺】(月に1回程度以上)

### ②新宿駅周辺

- ・ 新宿駅周辺に「月に1回程度以上」出かける人は、43.3%と池袋駅周辺よりも若干低い割合。
- 性別の傾向は、池袋駅周辺と同様に、男性の方が出かける割合が高い。
- 年齢で見ると、「20-24歳」は66.3%、「25-29歳」は54.8%であるのに対して、30代では、40%を下回る結果となっている。



図表 48 普段、出かける地域【新宿駅周辺】(月に1回程度以上)



## (5) 戸田市／都心の消費行動で期待するもの

上記より、若年層が戸田市での消費行動を軸にして、都心へ出かけていることを把握した。それゆえに戸田市に求めるものは、都心との比較から生じていると考えられる。そのことを前提とし、問 28 の自由記述から得られた、戸田市内の「消費」に関する問題点から論点を抽出する。まず、あげられるのは、「大型商業施設の不足」「駅前活性化」である。これらは若年層にとって、戸田市はただ生活する場所ではなく、賑わいが必要であることを物語っていると考えられる。

### ①大型商業施設

- 娯楽施設が少ない。映画館、ショッピングモールなど。
- 買い物できる店が少ない。レストランが少ない。
- 大型ショッピングセンターにより駅前の開発や商店街がないこと。
- 駅前周辺にあまり魅力がない。

### ②駅前の活性化

- 戸田公園駅がさみしい。
- 駅前を活性化してほしい。
- 駅前にお店が少なく、良いレストランやカフェが駅前にない。
- 北戸田駅周辺が活性化していない。イオンまでは歩くのが辛いし、駅にルミネやパルコ、エキュートがほしい。

### ③他のまちとの比較

- 都心に出やすい分、労働者（若い人）が都心に流れてしまい、戸田市内で働こうとなかなかならないところ。
- 駅前に商業施設がないので、都内に遊びに行ってしまう。シネコンなど、人が集まる場所を作ってほしい。
- 良くも悪くも便利な土地だけで、地域としての特徴がうすい。ショッピングセンターもどの地域にでもあるようなものばかりで戸田にしかないモノ、店、人が少ない。

上記を踏まえ、「他のまちとの比較」によって戸田市の問題点も指摘される。都心へのアクセスが良いというメリットが逆に若年層が都心へ流れてしまう、駅前に商業施設がないので、都内へ遊びに行ってしまう、などの問題点である。だが、若年層が「お気に入りの場所」としてあげた身近な居場所もあげられている点に注意する必要がある。それゆえに、「戸田にしかないモノ、店、人」が少ないという指摘は極めて重要であろう。戸田市に住む若年層が商業施設を求めていると言っても、その内実を理解しない限りは若年層のニーズに応えることは難しいためである。アンケートの結果と自由記述を重ねて、若年層のニーズを理解することの重要性はこの点に見出せるだろう。

## 7. 人間関係

『戸田市若年世帯意識調査成果報告書』（2012年）でも指摘されているように、若年層の内、男性は近所付き合いが少なく、また居住形態でも「持ち家」よりも「集合住宅」の方が、近所付き合いが少ないこともわかっている。その上で、本章では、若年層は、果たして「交通の利便性」を重視し、戸田市内の人間関係は「定住理由」として選択されないのか、あるいは、数年で転出可能性もあるため、戸田市内の人間関係構築は求めているのか、といった点を考えたい。

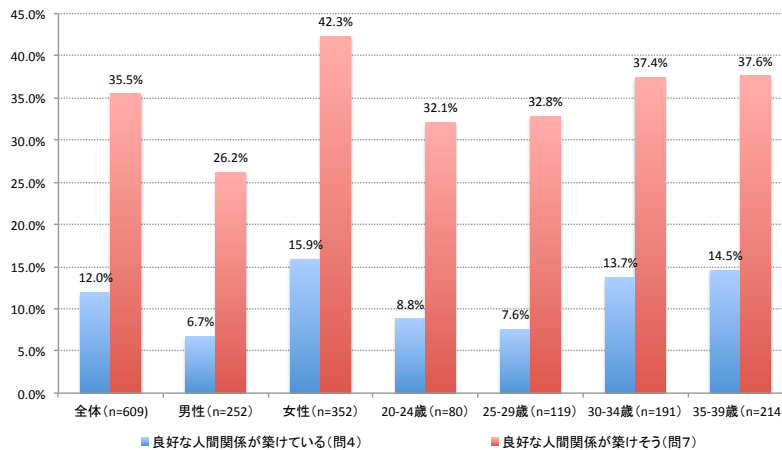
### （1）人間関係の希薄さと期待

まずは、戸田市に「居住し続けている理由」として「良好な人間関係を築けている」はどの程度、回答率があるのか、そして、現在は「良好な人間関係を築けていないが、期待はある」という人がどの程度いるのか、その落差に着目したい。

問4 あなたが戸田市に居住し続けている理由を教えてください。当てはまるもの**すべてに**○をつけて下さい。

問7 今後、あなたが住みたい街のイメージを教えてください。当てはまるもの**すべてに**○をつけて下さい。

- ・ 「戸田市に居住している理由」として「良好な人間関係が築けている」を選択した人は12.0%であるのに対して、「今後、住みたい街のイメージ」として「良好な人間関係が築けそう」を選択した人は35.5%と、23.5ポイントの差がある。
- 性別、年齢別で見ても、上述した傾向は同様。
- 現在、「良好な人間関係が築けている」と回答する人は少ないが、多くの人は、「良好な人間関係を求めている」ことが窺える。



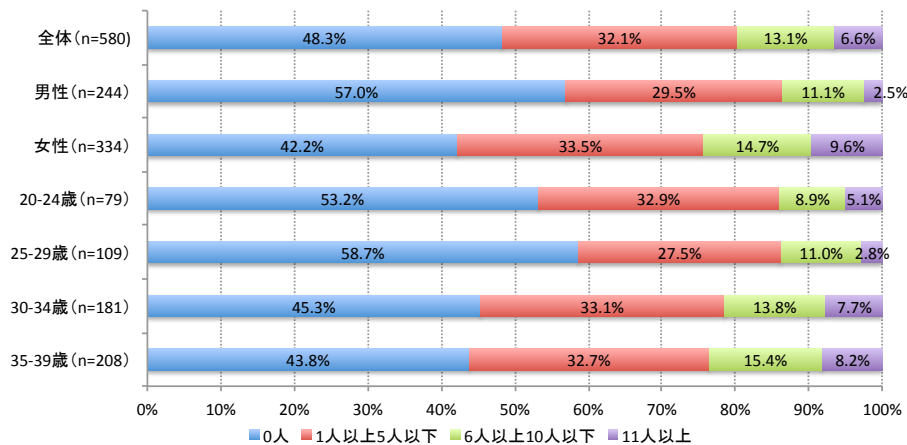
図表 49 「戸田市へ居住し続けている理由」と「今後、住みたい街のイメージ」の差（人間関係）

### （2）戸田市内でつきあいのある人数

現実と理想の落差があることを把握した上で、実際に「つきあいのある人数」について見ていこう。

問13 戸田市内で日常的に立ち話をするなどのつきあいのある方の人数を教えてください。

- ・ 「つきあいのある人数」は、「5人以下」が80.4%。「11人以上」と回答した人は、6.6%に過ぎない。
- 性別で見ると、「女性」の方が、年齢で見ると、30代の方が、「つきあいのある人数」は多いものの、若年層は戸田市内での人間関係を求めているながらも、築けていない現実が浮かび上がる。



図表 50 戸田市内でつきあいのある人の数

### (3) 戸田市内での知人

問 14 あなたは、戸田市内に次のような方はいらっしゃいますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ・ 「戸田市内の知人」は、「一緒に買物や遊びに行く人」(50.4%)、「悩み事の相談やアドバイスをくれる人」(36.3%)、「手伝いや手助けをしてくれる人」(32.5%)の順。
- 性別で見ると、上記3点について、「女性」の方が圧倒的に高い回答率。
- 年齢別で見ると、「20-24歳」で、「一緒に買物や遊びに行く人」(59.7%)、「悩み事の相談やアドバイスをくれる人」(40.3%)、「手伝いや手助けをしてくれる人」(39.0%)の他、「趣味について話したり、一緒に活動する人」(36.4%)と他の年齢カテゴリーよりも回答率が高い。
- 「知り合いはいない」に着目すると、「男性」、「25-29歳」はその割合が高い。男性の多くは、市内に不在であることが多く、また「25-29歳」は戸田市に転入してきたばかりの人が多くも関係していると思われる。

図表 51 戸田市内にどのような知人がいるか

	手伝いや手助けをしてくれる人	悩み事の相談やアドバイスをくれる人	一緒に買物や遊びに行く人	趣味に活動する人話したり、一緒に活動する人	地域活動をを通して付き合い始めた人	自己成長させる講座・セミナーを通して付き合いを始めた人	その他	知り合いはいない
全体 (n=609)	32.5%	36.3%	43.0%	25.0%	7.1%	1.8%	5.3%	35.8%
男性 (n=251)	24.7%	22.7%	33.5%	25.1%	5.6%	0.4%	5.2%	44.2%
女性 (n=349)	38.7%	46.4%	50.4%	24.9%	8.3%	2.9%	5.4%	30.7%
20-24歳 (n=77)	39.0%	40.3%	59.7%	36.4%	1.3%	0.0%	0.0%	29.9%
25-29歳 (n=118)	27.1%	28.8%	32.2%	20.3%	3.4%	2.5%	3.4%	50.0%
30-34歳 (n=192)	32.8%	37.0%	42.2%	27.1%	7.3%	2.1%	7.3%	31.3%
35-39歳 (n=212)	34.4%	39.2%	45.3%	22.2%	11.3%	1.9%	6.6%	35.4%

※全体のパーセンテージより5ポイント以上高いものを斜体で表示した。

#### (4) 「人とのつながり」への期待

以上より、戸田市に住む若年層は、地域での人間関係に興味関心を持っていないのではなく、それを求めるものの、達成できていない、という側面があることが示唆される。それは、今後住みたいまちのイメージとして「良好な人間関係が築けそう」への回答率が高いことから明らかである。それは、問 28 の自由記述からも窺える。以下に一例を示そう。

- 地域、近隣同士のつながりが薄い。共働きの家庭に優しくない。
- 人と人のコミュニケーションがとりづらい。
- 3年住んでも知り合いが戸田市に1人もいないこと。あまり地域と関わりが無いのは少し不安。
- ベッドタウンとしてはよいが、地域とのつながりが少なすぎる。
- 一人暮らしと家族持ちの間に壁がある。双方のコミュニケーションがない。
- 新しい住宅地は人のつながりが無い。子どものいない若い世代は近所づきあいをしないので。災害時など孤立しそう。

上記のような声は、人間関係の乏しさへの危機感として理解できる。アンケートの数値だけを見ると、若年層は転出可能性が高く、戸田市の人間関係も希薄で問題ないとしているかのような印象を受けてしまう。だが、彼／彼女らの声に耳を傾けてくると、人間関係の希薄さに対して決して満足しているわけではなく、それを強く求めていることが理解できる。そのような人たちをつなぎ合わせる場所をどのように構築するのが、今後の課題であろう。

## 8. まちづくり意識

戸田市に住む若年層は、地域での人間関係を求めている可能性があることを先に確認した。では、地域での人間関係を構築する場所は、どのような場所が想定されるだろうか。その一つとして、市民のまちへの関心、各自の問題意識をもとに、地域課題の解決を担う人材を育てるまちづくり学習のようなスタイルもあげられるだろう<sup>10</sup>。だが、そのようなスタイルは、地域への関心があることを前提としている。では、戸田市に住む若年層の「戸田市への関心」はどのようになっているのだろうか。本章では、この中間報告書のまとめとして、若年層の転出率を下げる可能性として、市民としての当事者性を高め、主体的に関わって行く機会を提供することが一つの方策となりうることを提示したい。

### (1) 「地域」への関心

通勤・通学のために戸田市に転入することが多いと言われる若年層であるが、戸田市の問題点や今後の可能性について、無関心なのであろうか。まずは、問6の回答結果をもとに、その点を理解しよう。

問6 あなたは戸田市がどのような点に力を入れると、今後、より住みやすくなると思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい (c. まちづくり機会の充実、d. 地域活動への参加しやすさ)。

- ・ 転出可能性が高いと言われる若年層であるが、今後、より住みやすくなるために力を入れて欲しい点に対して、「まちづくり機会の充実」は60.4%、「地域活動への参加しやすさ」は61.9%であり、地域への関心は決して低くない。
- 性別で見ると、「女性」は、「まちづくり機会の充実」で65.5%、「地域活動への参加しやすさ」で69.7%と全体よりも高い結果。
- 年齢で見ると、「20-24歳」は、「まちづくり機会の充実」で66.3%、「地域活動への参加しやすさ」で63.8%と他のどの年齢カテゴリーよりも高い結果。
- 「女性」の「20代前半」は、「地域」への関心が非常に高く、まちづくりに関わる可能性がある。

図表 52 「地域」への関心

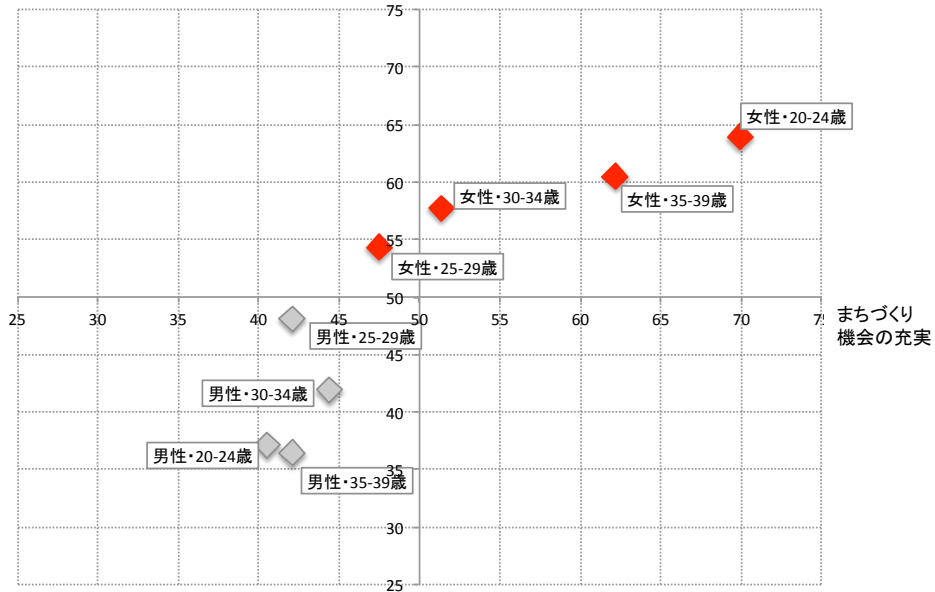
	まちづくり機会の 充実	地域活動への 参加しやすさ
全体 (n=609)	60.4%	61.9%
男性 (n=250)	55.6%	52.2%
女性 (n=348)	65.5%	69.7%
20-24歳 (n=80)	66.3%	63.8%
25-29歳 (n=119)	57.2%	61.3%
30-34歳 (n=191)	61.1%	63.5%
35-39歳 (n=214)	61.3%	61.1%

図表 52 の結果をさらに細かく見て行こう。図表 53 は、「まちづくり機会の充実」「地域活動の参加しやすさ」の回答を、性別×年齢カテゴリーで得点化（4点満点）し、その偏差値の分布を示したものである。

- ・ 「女性」は、「まちづくり機会の充実」「地域活動の参加しやすさ」ともに偏差値 50 を超えている（「25-29歳」を除く）。
- ・ 「男性」は、「女性」とは対極的に、「まちづくり機会の充実」「地域活動の参加しやすさ」ともに偏差値 50 を下回っている。
- 「地域」への関心は女性の方が高い。また、「男性」の関心をどのように引き上げるのが課題。

<sup>10</sup> 大西・富澤・津々見（2015）は、まちづくり学習と実際の活動の接続という観点から、戸田市生涯学習課と協働で「まちづくり学習プログラム」を設計・運用し、その実践から得られたデータの評価と課題を検討している。

地域活動への参加



図表 53 「まちづくり機会の充実」と「地域活動への参加しやすさ」との関連

図表 54 まちづくり機会の充実」と「地域活動への参加しやすさ」との関連（詳細）

【市民参加型のまちづくり機会の充実】(4点満点)			【地域活動への参加しやすさ】(4点満点)		
	平均得点	偏差値		平均得点	偏差値
男性・20-24歳	2.58	40.5	男性・20-24歳	2.52	37.1
男性・25-29歳	2.60	42.1	男性・25-29歳	2.68	48.1
男性・30-34歳	2.63	44.4	男性・30-34歳	2.59	41.9
男性・35-39歳	2.60	42.1	男性・35-39歳	2.51	36.4
女性・20-24歳	2.96	69.9	女性・20-24歳	2.91	63.9
女性・25-29歳	2.67	47.5	女性・25-29歳	2.77	54.3
女性・30-34歳	2.72	51.4	女性・30-34歳	2.82	57.7
女性・35-39歳	2.86	62.2	女性・35-39歳	2.86	60.5
平均値(全体)	2.70	0.129	平均値(全体)	2.71	0.146

## (2) 地域活動に期待すること

次に、「まちづくり」へ関心を持つ若年層は、何を期待しているのかについて、見ていこう。

問 15 あなたが戸田市内で地域活動に参加すると想定した場合、どのようなことを期待されますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

- ・ 「同世代の人との新たなつながり」(55.3%)、「異なる世代の人との新たなつながり」(38.8%)と「人間関係の構築」に高い関心が寄せられている。
- ・ 一方で、「地域の問題・課題を理解すること」(16.9%)、「地域の問題課題を解決すること」(16.3%)と「地域課題」に関する事柄は、回答率が低い傾向。

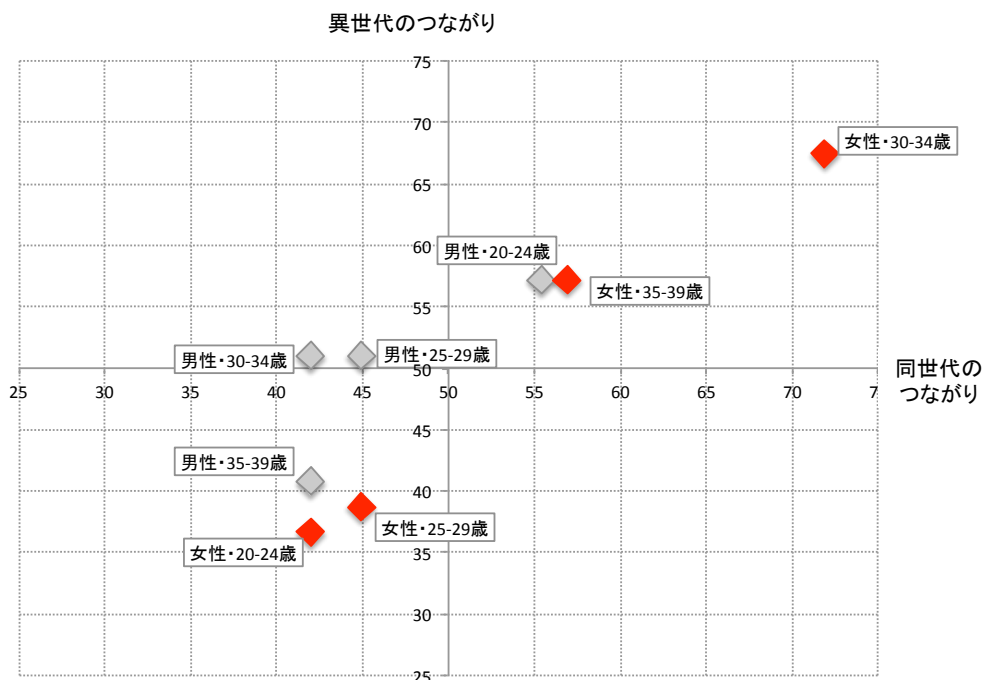
	同世代の人との新たなつながりを得ること	異なる世代の人との新たなつながりを得ること	地域の問題・課題を理解すること	地域の問題・課題を解決すること	地域のことを全般的により理解すること	自分のスキル・能力を高めること	その他	特に期待するものはない
全体 (n=609)	55.3%	38.8%	16.9%	16.3%	19.7%	32.5%	1.1%	18.1%
男性 (n=253)	50.2%	37.2%	19.8%	17.8%	18.6%	29.6%	0.4%	22.9%
女性 (n=352)	59.1%	40.1%	15.1%	15.1%	20.7%	34.7%	1.7%	14.8%
20-24歳 (n=77)	52.5%	36.3%	18.8%	18.8%	22.5%	43.8%	0.0%	16.3%
25-29歳 (n=118)	51.7%	35.6%	11.0%	11.9%	14.4%	39.0%	1.7%	27.1%
30-34歳 (n=192)	60.9%	43.8%	19.3%	16.1%	23.4%	26.0%	0.5%	14.6%
35-39歳 (n=212)	54.2%	37.9%	17.8%	18.2%	18.7%	30.8%	1.9%	16.8%

※全体のパーセンテージよりも、5ポイント以上高いものを斜体、5ポイント以上ひくいものを下線で示した。

図表 55 地域活動に期待すること

「地域活動に期待すること」の内、①人間関係の構築（「同世代の人との新たなつながり」「異世代の人との新たなつながり」）、②地域課題への意識（「地域の問題・課題の理解」「地域の問題・課題の解決」）について、より詳しく見て行こう。図表 56、57、58、59 は、回答率を性別×年齢カテゴリーごとに得点化し、偏差値を算出した分布を示したものである。

①人間関係の構築



図表 56 「同世代の人との新たなつながり」と「異世代の人との新たなつながり」の関連

図表 57 「同世代の人との新たなつながり」と「異世代の人との新たなつながり」の関連（詳細）

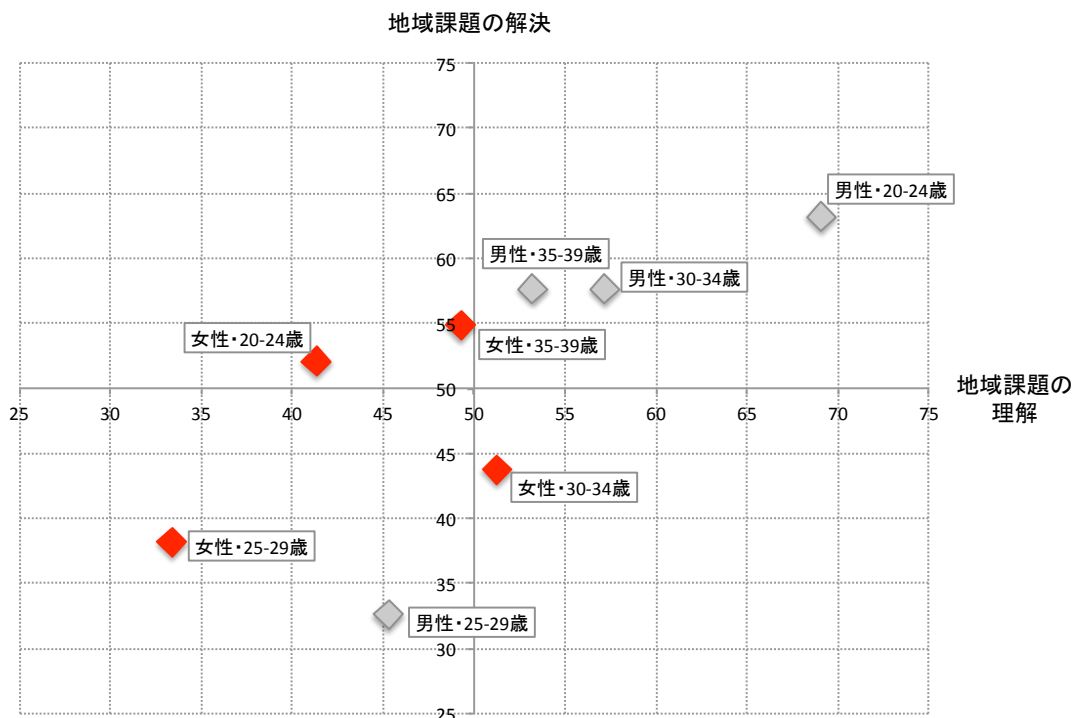
【同世代とのつながり】(○がついたら1点)			【異世代とのつながり】(○がついたら1点)		
	平均回答率	偏差値		平均回答率	偏差値
男性・20-24歳	0.58	55.4	男性・20-24歳	0.42	57.2
男性・25-29歳	0.51	45.0	男性・25-29歳	0.39	51.0
男性・30-34歳	0.49	42.0	男性・30-34歳	0.39	51.0
男性・35-39歳	0.49	42.0	男性・35-39歳	0.34	40.8
女性・20-24歳	0.49	42.0	女性・20-24歳	0.32	36.7
女性・25-29歳	0.51	45.0	女性・25-29歳	0.33	38.7
女性・30-34歳	0.69	71.9	女性・30-34歳	0.47	67.4
女性・35-39歳	0.59	56.9	女性・35-39歳	0.42	57.2

平均値(全体)	標準偏差	平均値(全体)	標準偏差
0.54	0.067	0.39	0.049

- ・ 「男性・20-24歳」、「女性・30-34歳」「女性・35-39歳」は、「同世代のつながり」「異世代のつながり」のいずれも期待している傾向。
- ・ 「男性・35-39歳」「女性・20-24歳」「女性・25-29歳」は、「同世代のつながり」「異世代のつながり」のいずれも期待していない傾向。
- 主に30代の女性は、子育てとの関連で、人的ネットワーク構築を目的として、まちづくりに関心を持っていることが窺える。こういった層から、どんな問題意識があるのかを見出すだけでも、若年層のリアルな意識が理解できるのではないか。

②地域課題への意識



図表 58 「地域課題の理解」と「地域課題の解決」との関連



図表 59 「地域課題の理解」と「地域課題の解決」との関連（詳細）

【地域課題の理解】(〇がついたら1点)

	平均回答率	偏差値
男性・20-24歳	0.27	69.1
男性・25-29歳	0.15	45.3
男性・30-34歳	0.21	57.2
男性・35-39歳	0.19	53.2
女性・20-24歳	0.13	41.3
女性・25-29歳	0.09	33.4
女性・30-34歳	0.18	51.2
女性・35-39歳	0.17	49.3

【地域課題の解決】(〇がついたら1点)

	平均回答率	偏差値
男性・20-24歳	0.21	63.2
男性・25-29歳	0.10	32.6
男性・30-34歳	0.19	57.6
男性・35-39歳	0.19	57.6
女性・20-24歳	0.17	52.1
女性・25-29歳	0.12	38.2
女性・30-34歳	0.14	43.7
女性・35-39歳	0.18	54.9

平均値(全体)	標準偏差
0.17	0.050

平均値(全体)	標準偏差
0.16	0.036

- ・ 「地域課題の理解」「地域課題の解決」のいずれも回答率が低いことを前提としなければならないが、「人間関係の構築」とは対照的に「男性」の方が、関心が高いことが読み取れる。
- ・ 「女性」は、「地域課題」への意識よりも「人間関係」を重視している傾向がある。
- 前提として「地域課題」への意識は回答率が低い点は注意が必要である。その中で、「男性」の偏差値が高いことを踏まえるならば、いかにして「参加」へと導いて行くのがポイント。
- 「女性」は、「人間関係の構築」をきっかけにする傾向があるが、「参加」する中で、「地域課題」と向き合っていくための仕掛けを生み出すことがポイント。

### (3) 若年層の「まちづくり意識」の萌芽

若年層の「まちづくり意識」の萌芽は、アンケートの結果のみならず、問 28 の自由記述からも読み取れる。一例を示せば以下の通りである。

- 乳児や未就学児がいる親同士の交流の場や転居者によるコミュニティをもう少し充実させてほしい。参加のしやすい環境がいい。
- 人とのつながりを持てる場所がない。近所づきあいがいい。
- 地域内で他者と交流する機会がない。
- 地域内のコミュニティが少ない。近所づきあいがいい。
- 新築マンション居住だが、地域に関わる機会が持てなく不安がある。
- 地域の問題、課題を知るタイミングが少ないため、地域にまつわる考えや悩みなど「特にない」という問題意識があること自体問題。
- 戸田市の人口は増えていると感じるが、昔から住んでいる者として、暮らしやすいまちになったか分からない。新しい住民の人たちと交流する場が増えるとういと思う。

これらは、いずれも行政に何かをして欲しいという声としてではなく、他者と交流して、何かを生み出したいという声として読み取ることが可能であろう。本調査では、既存の調査研究と同様に若年層の問題を扱ったが、転出可能性の高さや問題点を指摘するばかりではなく、自由記述にも目を通し、若年層の潜在的な「戸田市」への関心の高さを読み取ってきた。そこから見出せる次年度の共同研究の方向性は、若年層に芽生えつつある「まちづくり意識」を基盤にして、まちへ関わり、居場所を作り出すことが若年層の転出問題の解決策になる可能性があることを論点としていくことである。

## 参考文献・資料

- 大西律子・富澤浩樹・津々見崇,2015,「官学協働による「まちづくり学習プログラム」の設計・運用に関する基礎研究：埼玉県戸田市におけるまちづくり活動への接続を視野に入れた学習プログラムの展開を中心に」,『地域活性研究』6:279-288.
- 永井保男,2014,「国内移住の人口学」,『中央大学経済研究所年報』,(45):653-687.
- 山本薫子・饗庭伸・若林芳樹・松本真澄・坪本裕之・門脇耕三,2012,「『郊外都市住民の地域生活に関する調査』報告：東京都立川市におけるコミュニティの状況と住民意識」,『都市科学研究』4:71-86.
- 朝霞市,2014,『市民意識調査、青少年アンケート結果報告書』(<http://www.city.asaka.lg.jp/uploaded/attachment/19823.pdf> 最終アクセス日 2016年2月20日).
- 川口市,2014,『総合計画のための市民意識調査結果報告書』(<http://www.city.kawaguchi.lg.jp/kbn/Files/1/04010060/attach/26shiminnishikichousahoukokusho.pdf> 最終アクセス日 2016年2月20日).
- 戸田市,2012,『戸田市若年世帯意識調査成果報告書』(<https://www.city.toda.saitama.jp/uploaded/attachment/45.pdf> 最終アクセス日 2016年1月5日).
- 戸田市,2015,『戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略』(<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/152/kikaku-sougousenryaku.html> 最終アクセス日 2016年1月5日).
- 戸田市,2015,『戸田市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る人口ビジョン』(<https://www.city.toda.saitama.jp/soshiki/152/kikaku-sougousenryaku.html> 最終アクセス日 2016年1月5日).
- 戸田市 HP オープンデータ・統計 人口統計速報(2015年12月1日) (<https://www.city.toda.saitama.jp/site/opendata/jinkou-2015.html> 最終アクセス 2016年2月15日).
- 「空き家を地域コミュニティの交差点に」,朝日新聞,2014年6月17日 ([http://www.asahi.com/and\\_wlife/SDI2014061786201.html](http://www.asahi.com/and_wlife/SDI2014061786201.html) 最終アクセス日 2016年2月20日).
- 「人口減少意識調査 25%『転居』の意向 7市町村住民、全年代「交通不便」多数 県・埼玉大調査／埼玉」毎日新聞,2015年12月9日 (<http://mainichi.jp/articles/20151209/ddl/k11/040/100000c> 最終アクセス日 2015年12月15日)

## 「若年層の居場所に関する研究調査」 ご協力のお願い

日頃から市政へのご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

戸田市政策研究所は、市の市政運営について調査研究を行うことを目的に、設置されている機関です。

今年度、本研究所では、20代・30代の市民を対象に、市内での生活や消費行動を中心に調査し、若年層の転出を減少させるための研究をしています。この調査は、戸田市にお住まいの20歳以上40歳未満の方の中から、1,500人を無作為に選んでお願いしているところです。

ご多用のところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ぜひアンケートにお答えくださいますよう、お願いいたします。

なお、このアンケートに関して個人の意見が公表されることは一切ありません。ぜひ率直なご意見をいただきますよう、重ねてお願い申し上げます。

平成27年10月

戸田市政策研究所長 山田 一彦

### ◆ご記入の前に◆

#### 1 回答のしかた

- ・この調査票は、封筒宛名のご本人がご記入ください。
- ・質問は全部で28問です。各質問の説明に従って、回答欄にご記入ください。筆記用具の種類は問いません。
- ・回答の際は、平成27年10月1日時点の状況をお答えください。

#### 2 返送のしかた

回答が済みましたら、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに、平成27年11月16日(月)までに投函してください。封筒や調査票に住所・氏名を記入する必要はありません。

#### 3 問合せ

〒335-8588 戸田市上戸田1-18-1

戸田市役所 戸田市政策研究所

電話 048-441-1800 (内線470)

FAX 048-431-6790

E-mail [seisaku@city.toda.saitama.jp](mailto:seisaku@city.toda.saitama.jp)

なお、この調査結果につきましては、戸田市ホームページ等で概要を公表する予定です。

# 若年層の居場所に関するアンケート（全部で4ページあります）

## I. 戸田市での生活についてお尋ねします。

問1 あなたが戸田市に住むようになった理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 戸田市内での親との同居・近居	2. 職業上の理由（就職・転職）	3. 生活環境上の理由（教育環境など）
4. 結婚・離婚	5. 通勤・通学の便	6. 経済上の理由
7. 行政サービスの魅力	8. 生まれてからずっと住んでいる	9. その他（ ）
10. 特に理由はない		

問2 あなたが戸田市外へ引っ越すとしたら考えられる理由は何ですか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 戸田市外での親との同居・近居	2. 職業上の理由（就職・転職）	3. 生活環境上の理由（教育環境など）
4. 結婚・離婚	5. 通勤・通学の便	6. 経済上の理由
7. 行政サービスの魅力	8. 引っ越す予定はない	9. その他（ ）
10. 特に理由はない		

問3 あなたの戸田市での居住歴を教えてください（6ヶ月以上は繰り上げて数えて下さい）。

約 年

問4 あなたが戸田市に居住し続けている理由を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 自然環境が豊かである	2. 買物や食事などに便利なお店が揃っている
3. 都心への交通アクセスが良い（通勤・通学）	4. 都心への交通アクセスが良い（遊び・買物）
5. 子育て環境が充実している	6. 近隣の人と良好な人間関係が築けている
7. その他（ ）	8. 特に理由はない

問5 あなたは戸田市で生活をする上で、以下の点についてどのように思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
a. 自然環境が豊かである	1	2	3	4
b. 都心への交通アクセスが良い（通勤・通学）	1	2	3	4
c. 都心への交通アクセスが良い（遊び・買物）	1	2	3	4
d. 子育て環境が充実している	1	2	3	4
e. 自分を成長させる講座・セミナーを開催している	1	2	3	4
f. できることなら戸田市で働きたい	1	2	3	4
g. 今後も戸田市に住み続けたい	1	2	3	4

問6 あなたは戸田市がどのような点に力を入れると、今後、より住みやすくなると思いますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

	そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう 思わない
a. 駅前の活性化	1	2	3	4
b. 大型商業施設の誘致	1	2	3	4
c. 市民が参加できるまちづくりの機会の充実	1	2	3	4
d. 地域活動への参加しやすさ	1	2	3	4
e. 待機児童の解消	1	2	3	4
f. 子育て支援制度の充実	1	2	3	4
g. 自分を成長させる講座・セミナーの開催	1	2	3	4

問7 今後、あなたが住みたい街のイメージを教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 自然環境が豊かである	2. 買物や食事などに便利なお店が揃っている
3. 都心への交通アクセスが良い (通勤・通学)	4. 都心への交通アクセスが良い (遊び・買物)
5. 子育て環境が充実している	6. 近隣の人と良好な人間関係が築けそう
7. その他 ( )	8. 何もイメージしていない

問8 今後、あなたが住みたいと思う地域を教えてください。以下の中で、もっとも当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 戸田市	2. 蕨市	3. 川口市	4. さいたま市	5. 東京都内
--------	-------	--------	----------	---------

## II. 戸田市での行動についてお尋ねします。

問9 現在のお住まいの地区を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 下戸田地区 (喜沢、喜沢南、中町、下戸田、下前、川岸1・2丁目)
2. 上戸田地区 (川岸3丁目、本町、南町、戸田公園、上戸田、大字上戸田)
3. 新曽地区 (新曽南、氷川町、大字新曽)
4. 笹目地区 (笹目南町、早瀬、笹目、笹目北町、大字下笹目)
5. 美女木地区 (美女木、美女木東、大字美女木)

問10 あなたの通勤・通学にかかる時間について、当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 30分未満	2. 30分以上1時間未満	3. 1時間以上1時間30分未満
4. 1時間30分以上2時間未満	5. 2時間以上	6. 通勤・通学していない

問11 あなたが自動車を利用する頻度を教えてください (ご家族が利用する自動車に同乗する場合を含めてお答え下さい)。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。「6. 利用しない」と答えた方は、問13へお進み下さい。

1. ほぼ毎日	2. 週4～5日	3. 週2～3日	4. 週1日程度	5. 月に数回以下	6. 利用しない
---------	----------	----------	----------	-----------	----------

問12 問11で自動車を「利用する」に○をつけた方 (「1～5」のいずれかに○をつけた方) にお尋ねします。以下の目的で、あなたもしくはご家族が自動車を利用することはありますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 通勤・通学	2. 家族の送り迎え	3. 買物など	4. 旅行など	5. その他 ( )
----------	------------	---------	---------	------------

問13 戸田市内で日常的に立ち話をするなどのつきあいのある方の人数を教えてください。

約  人

問14 あなたは、戸田市内に次のような方はいらっしゃいますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 手伝いや手助けをしてくれる人	2. 悩み事の相談やアドバイスをくれる人
3. 一緒に買物や遊びに行く人	4. 趣味について話したり、一緒に活動する人
5. 地域活動を通して付き合いを始めた人	6. 自分を成長させる講座・セミナーを通して付き合いを始めた人
7. その他 ( )	8. 知り合いはいない

問15 あなたが戸田市内で地域活動に参加すると想定した場合、どのようなことを期待されますか。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 同世代の人との新たなつながりを得ること	2. 異なる世代の人との新たなつながりを得ること
3. 地域の問題・課題を理解すること	4. 地域の問題・課題を解決すること
5. 地域のことを全般的により理解すること	6. 自分のスキル・能力を高めること
7. その他 ( )	8. 特に期待するものはない

問16 あなたは買物・外食・子育てなどの「地域の情報」を得るときに、以下にあげる手段をどの程度利用されますか。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

	よく利用する	ときどき利用する	ほとんど利用しない	まったく利用しない
a. テレビ・ラジオ・新聞	1	2	3	4
b. フリーペーパーなどの地域情報誌	1	2	3	4
c. インターネット	1	2	3	4
d. 友人などの口コミ	1	2	3	4
e. 戸田市の広報紙	1	2	3	4
f. 戸田市のホームページ	1	2	3	4
g. 戸田市のスマホアプリ (toco ぷり)	1	2	3	4
h. 戸田市の SNS (Facebook など)	1	2	3	4

問17 戸田市の中で、あなたのお気に入りの場所をご自由に記入して下さい (公園・店舗名など何でも構いません)。

### Ⅲ. 日常的な消費行動についてお尋ねします。

問18 あなたが普段、よく立ち寄る商業施設を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. イオン北戸田 SC	2. イトーヨーカドー蕨錦町店	3. ドン・キホーテ蕨店
4. ララガーデン川口	5. アリオ川口	6. その他 ( )
7. どこも利用しない		

問19 あなたが普段、買物をする場所を教えてください。当てはまるものすべてに○をつけて下さい。

1. 百貨店	2. 駅ビル (駅ナカ)	3. 戸田市内のショッピングセンター
4. 戸田市近隣のショッピングセンター	5. 近所のスーパー	6. 地元の商店街
7. 通販サイト (楽天、Amazon など)	8. その他 ( )	9. 何も利用しない

問20 あなたは次の地域にどのくらいの頻度で出かけますか (1人、ご友人やご家族と一緒にの場合も含めてお答え下さい)。それぞれ当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

	ほぼ毎日	週に数回程度	週に1回程度	月に1回程度	数ヶ月に1回程度	まったく行かない
a. 戸田市内	1	2	3	4	5	6
b. 大宮駅周辺	1	2	3	4	5	6
c. 浦和駅周辺	1	2	3	4	5	6
d. 川口駅周辺	1	2	3	4	5	6
e. 赤羽駅周辺	1	2	3	4	5	6
f. 池袋駅周辺	1	2	3	4	5	6
g. 新宿駅周辺	1	2	3	4	5	6
h. 渋谷駅周辺	1	2	3	4	5	6
i. その他 ( )	1	2	3	4	5	6

(このウラが最終ページです)

**IV. あなた自身のことについてお尋ねします。**

問21 あなたの年齢と性別を教えてください。

歳	1. 男性	2. 女性
---	-------	-------

問22 あなたが最後に通った学校について、以下の中で当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 大学・大学院	2. 短大・高専	3. 専門・各種学校
4. 高校	5. 中学	6. その他 ( )

問23 同居されているご家族の人数（あなた自身を含む）を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1人暮らし	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人以上
-------	----	----	----	----	----	----	------

問24 現在、あなたに配偶者（夫または妻）はいらっしゃいますか。

1. いる	2. いない
-------	--------

問25 あなたには、お子さんは何人いらっしゃいますか（同居非同居問わず）。お子さんがいらっしゃらない場合は「0」と記入し、問26へ進んで下さい。お子さんがいらっしゃる場合は、一番上と一番下のお子さんの年齢を教えてください。

<div style="border: 1px solid black; width: 80px; height: 20px; display: inline-block;"></div> 人	①一番上のお子さんの年齢 (お一人の場合には、こちらにご記入下さい)	歳
	②一番下のお子さんの年齢	歳

問26 あなたの現在の立場を教えてください。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. 正社員・正職員	2. 自営業・自由業	3. 契約社員・嘱託	4. 派遣社員
5. パート・アルバイト	6. 家族従業員	7. 会社経営・役員	8. 専業主婦（主夫）
9. 学生	10. 無職	11. その他 ( )	

問27 あなたが1ヶ月に自由に使えるお金の金額を教えてください。

1ヶ月平均：約	円
---------	---

問28 あなたが戸田市に居住し続けると想定した場合に、①あなたの感じる戸田市の問題点、②今後の戸田市に期待することについて、ご自由に記入して下さい。

①あなたの感じる戸田市の問題点	
②今後の戸田市に期待すること	

これでアンケートは終わりです。最後に、記入もれがないかどうかご確認いただき、返信用封筒に入れて、ご返送下さい。お忙しい中、ご協力いただき、誠にありがとうございました。





戸田市における 20 代・30 代の若年層に関する基礎研究  
共同研究中間報告書【本編】

---

2016 年 3 月

発行 戸田市政策研究所／目白大学社会学部地域社会学科

連絡先 戸田市政策研究所（戸田市政策秘書室）

〒335-8588 戸田市上戸田 1 丁目 18 番 1 号

TEL 048-441-1800（内線）470

E-mail [seisaku@city.toda.saitama.jp](mailto:seisaku@city.toda.saitama.jp)

---